（案）

第６次
日進市生涯学習
４Ｗプラン



日進市教育委員会

令和９年３月

目　次

第１章　プランの策定にあたって 1
１ 計画策定の背景 1
２ 近年の生涯学習に関する動向 1
３ 計画の位置づけ 2
４ 計画の期間 2
５ SDGs(持続可能な開発目標)と本プランとの関連について 3

第２章　生涯学習をめぐる現状と課題 4
１ 統計指標からみる現状 4
２ 生涯学習施設の現状 8
３ 第5次生涯学習4Wプランの総括と課題 14

第３章　本計画の施策の展開と市の考え方 30
１ 生涯学習4W プランの基本理念 30
２ 基本理念と基本的な方針 31
３ ４つの基本目標 32
４ 施策の体系 34

第４章　施策の内容 36
基本目標1　地域の生涯学習活動を推進し、次代を担う人材が育つ環境を 整えます 36
基本目標2　文化芸術の輪を広げ、歴史の継承と文化財の保護と活用を 図ります 46
基本目標3　健康で豊かに暮らすため、ライフステージに応じたスポーツ 活動を推進します 51
基本目標4　心の豊かさを育み、より良い読書活動を推進します 56

4W とは？

When　いつでも、いつからでも気軽に学習する

Where　どこでも学習でき、どこからでも生涯学習情報が得られる

Who　だれでも学習し、だれからでも学習成果の発信ができる

What　なんでも、なにからでも学習する

第１章　プランの策定にあたって

１　計画策定の背景

日進市（以下「本市」という。）では、「教育基本法」及び「社会教育法」の趣旨に則り、平成 14 年3月に「日進市生涯学習4W プラン」を策定し、市が行う生涯学習事業（生涯学習講座・イベント、生涯学習施設の整備、生涯学習団体の支援等）や、文化芸術活動やスポーツ活動などを含めた個人における生涯学習活動の支援に取り組んできました。その後、平成 19 年に「第2次日進市生涯学習4W プラン」、平成 24 年に「第3次日進市生涯学習4W プラン」、平成 29 年に「第4次日進市生涯学習4W プラン」、令和4年に「第5次日進市生涯学習4W プラン」を策定しました。

「第5次日進市生涯学習4W プラン」の策定から5年が経過し、第5次プランの計画期間が終了することから、これまでの取組を検証し、昨今の社会情勢や市民のニーズに対応した生涯学習推進に向けて、「第6次日進市生涯学習4W プラン」を策定します。

２　近年の生涯学習に関する動向

（１）国の動向

国では文部科学省を中心に、生涯学習の基盤整備を行っています。平成 18 年に教育基本法が改正され、生涯学習の理念が新たに定義されました。その後、平成 20 年に「教育振興基本計画（第1期）」が策定され、平成 25 年に「教育振興基本計画（第2期）」、平成 30 年に「教育振興基本計画（第3期）」、令和5年に「教育振興基本計画（第4期）」が策定されました。「教育振興基本計画（第4期）」では、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」、「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」、「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」、「教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進」、「計画の実効性確保のための基盤整備・対話」と5つの基本的方針を示し、取組を進めています。

（２）県の動向

愛知県では、平成５年から生涯学習審議会を設置し、生涯学習に関する施策を総合的に推進できるように調査審議を行っています。平成7年には、生涯学習推進本部が設置され、「愛知県生涯学習推進計画事業」の取りまとめを行っています。平成 15 年には生涯学習推進センターが開設し、県内の生涯学習を推進する中核となっています。また、生涯学習情報システム「学びネットあいち」では、県をはじめ、市町村や大学等の生涯学習関係機関・団体と協力し、学習情報を提供しています。

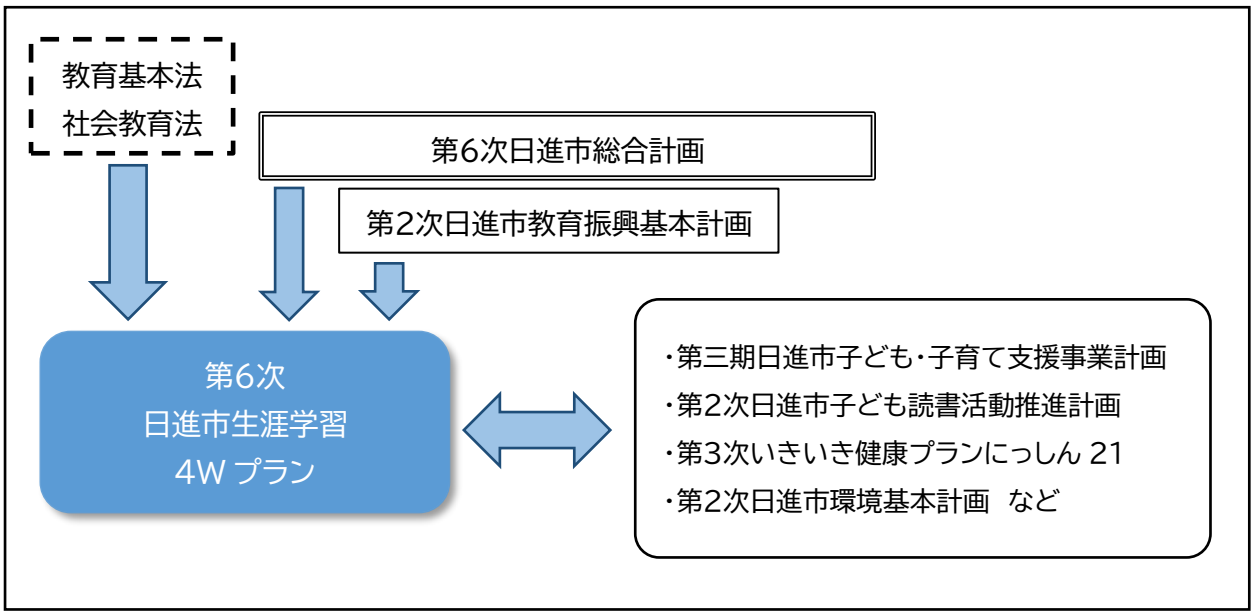
平成 25 年には、「生涯学習推進計画」が策定され、平成 30 年に「第2期生涯学習推進計画」、令和5年に「第3期生涯学習推進計画」、令和8年に統合し「第五次愛知県教育振興基本計画」を策定しました。「第五次愛知県教育振興基本計画」では、生涯学習とは、人々が生涯に行うあらゆる学習のことであり、学校教育、家庭教育、社会教育を含むものであることから、計画全体を生涯学習振興の計画とし、全ての基本施策において乳幼児から大人を含めて推進しています。

３　計画の位置づけ

本市において、生涯学習の推進及びそのための生涯学習環境の充実を図るため、「教育基本法」及び「社会教育法」の精神にのっとった計画です。

「第6次日進市総合計画」及び「第2次日進市教育振興基本計画」を上位に持ち、生涯学習に関する施策を具体的に実施するための個別計画として位置づけます。

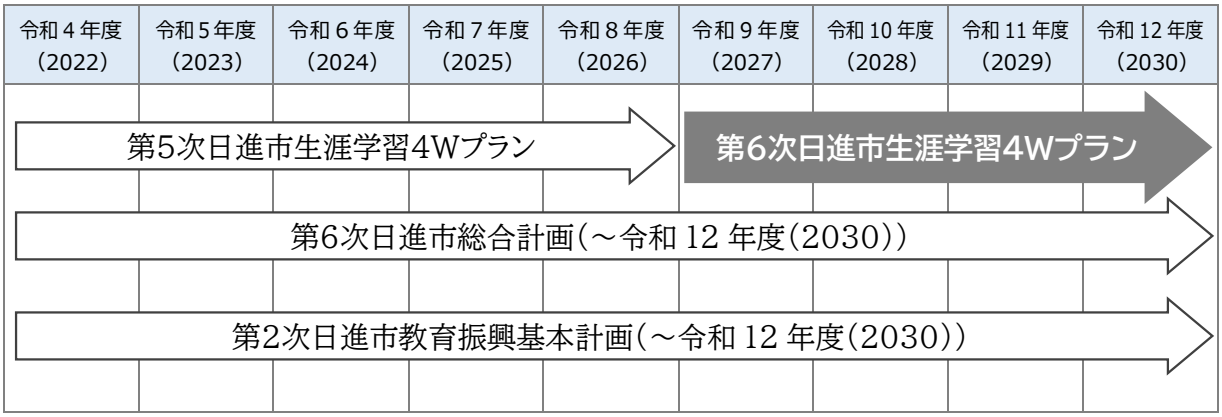
「第三期日進市子ども・子育て支援事業計画」、「第2次日進市子ども読書活動推進計画」、「第3次いきいき健康プランにっしん 21」、「第2次日進市環境基本計画」などと整合性を図ります。



４　計画の期間

この計画の期間は令和9年度を初年度とし、令和12年度までの4年間とします。

上位計画である「第6次日進市総合計画」及び「第2次日進市教育振興基本計画」の計画期間にあわせることにより、整合を図ります。



５　ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）と本プランとの関連について

SDGsは、2015（平成 27）年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（行動計画）」に記載された、国際的な取組目標である「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」の略です。

SDGsでは、誰一人として取り残さない社会の実現を目指し、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」など、17 のゴール（目標）とそれを達成するための 169 のターゲットが設定されています。その目標の達成に向けて全ての人々が SDGs を理解し、それぞれの立場で主体的に行動することが求められています。

本プランにおいては、SDGsの目標3【すべての人に健康と福祉を】「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」、目標4【質の高い教育をみんなに】「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」、目標 11【住み続けられるまちづくりを】「都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする」、目標 17【パートナーシップで目標を達成しよう】「持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」が関連することから、本市における生涯学習を取り巻く現状や課題を踏まえるとともに、SDGsの視点を取り入れながら、課題解決に向けた学びを積極的に推進します。



SDG s 17 の目標

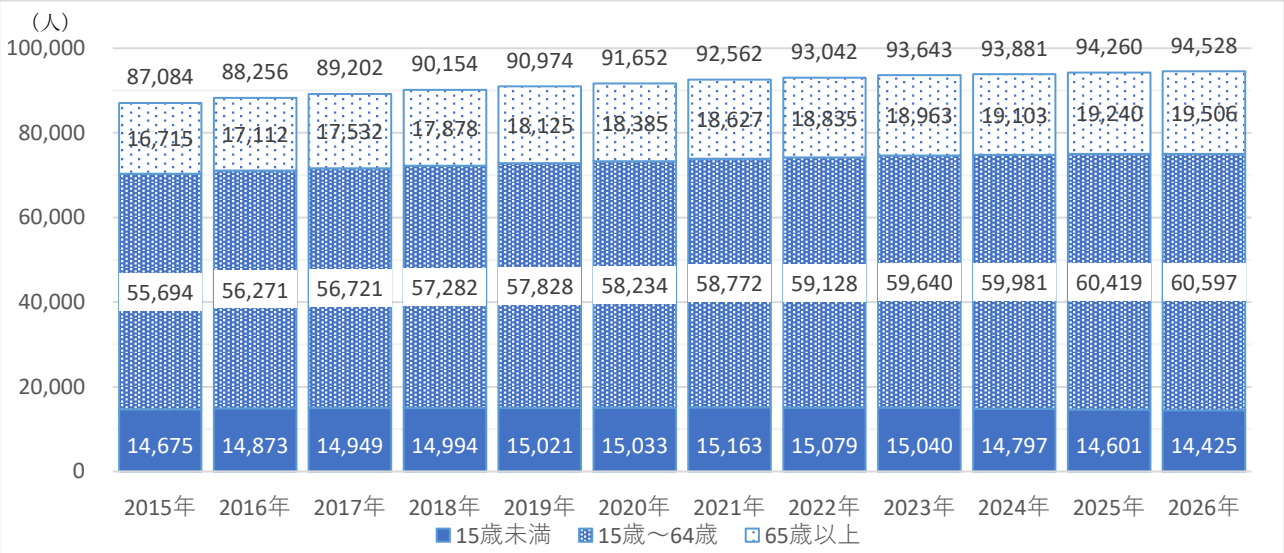
第２章　生涯学習をめぐる現状と課題

１　統計指標からみる現状

（１）総人口の推移

本市の総人口は 2026 年で 94,528 人となっており、緩やかな増加傾向にあります。年齢3区分別の人口をみると、15 歳以上の人口が増加しています。2015 年と 2026 年を比較すると、15 歳未満は 250 人減少（約 0.98 倍）、15 歳～64 歳は 4,903 人増加（約 1.09 倍）、65 歳以上は 2,791 人増加（約 1.17 倍）しています。

図表 1 本市の総人口

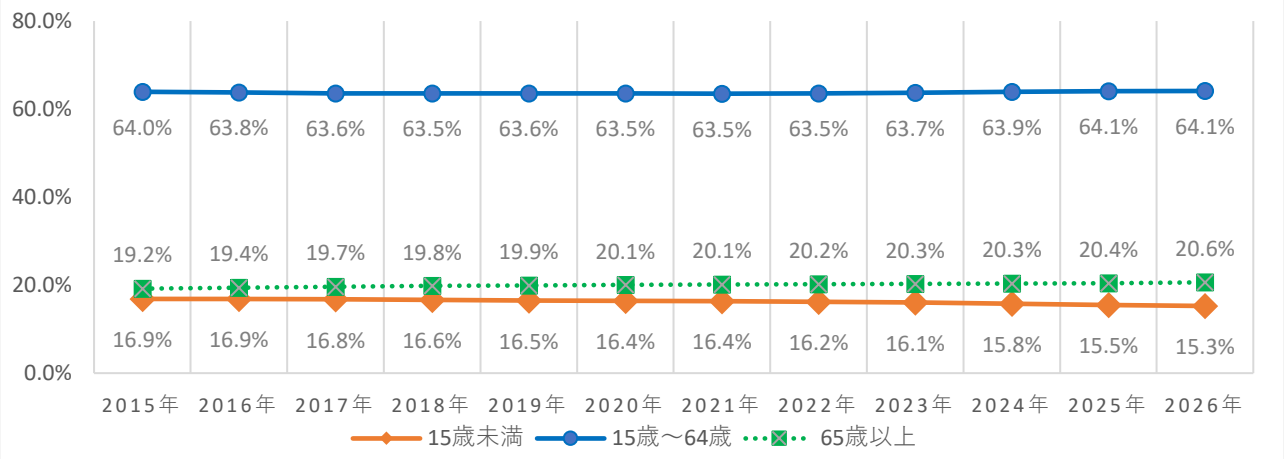


資料：住民基本台帳（各年４月１日現在）

（２）年齢３区分別人口割合の推移

年齢3区分別人口割合でみると、15 歳未満の割合が減少する中、65 歳以上の割合は増加傾向にあることから、高齢化が進んでいることがうかがえます。

図表 2 年齢3区分別人口割合の推移

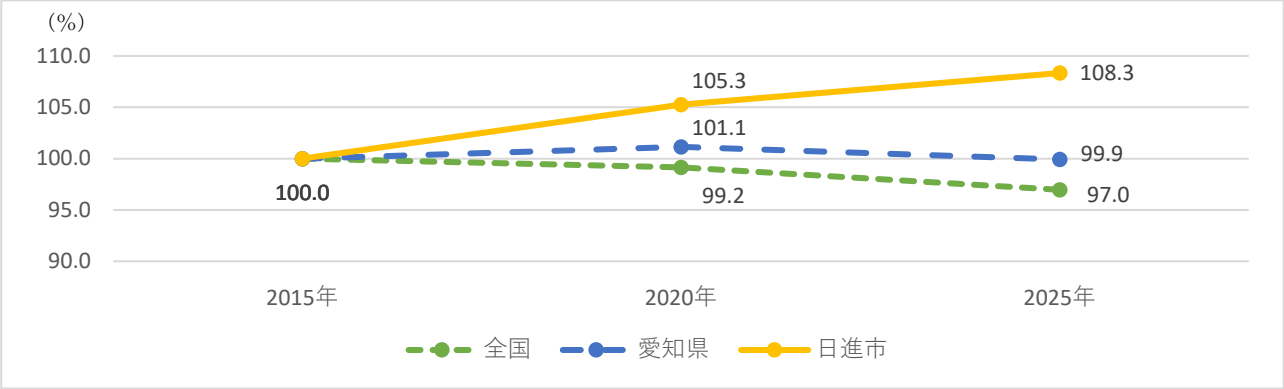


資料：住民基本台帳（各年４月１日現在）

（３）人口推移の比較（全国・愛知県）

2015 年の人口を 100 として、2025 年の人口を愛知県や全国と比較すると、本市の人口は約 10%高い水準で推移しています。

図表 3 人口推移の比較

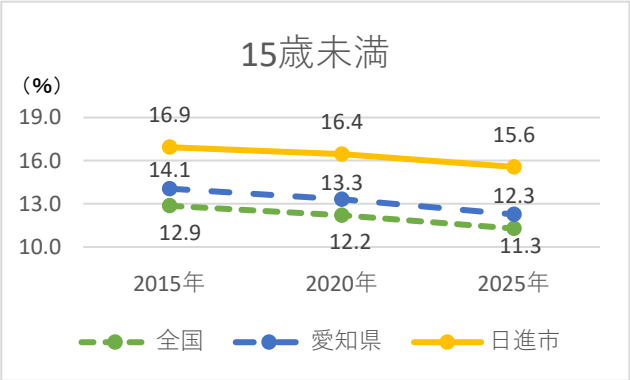


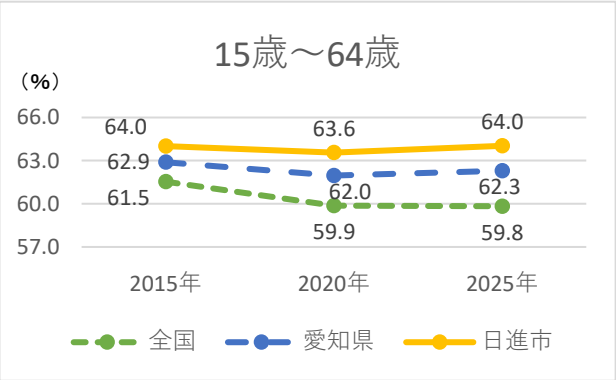
資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年 1 月 1 日時点）

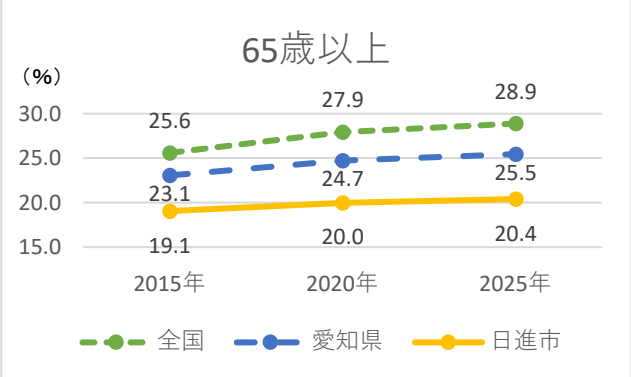
（４）年齢３区分別人口割合の比較（全国・愛知県）

年齢3区分別人口割合を全国や愛知県と比較すると、本市の 15 歳未満は全国や県よりも高く、15～64 歳はやや高く、65 歳以上は低くなっています。推移をみると、15 歳未満はやや減少、15～64 歳は横ばい、65 歳以上は増加となっており、傾向は全国や県と同様となっています。

図表 4 年齢3区分別人口割合の経年比較







資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年 1 月 1 日時点）

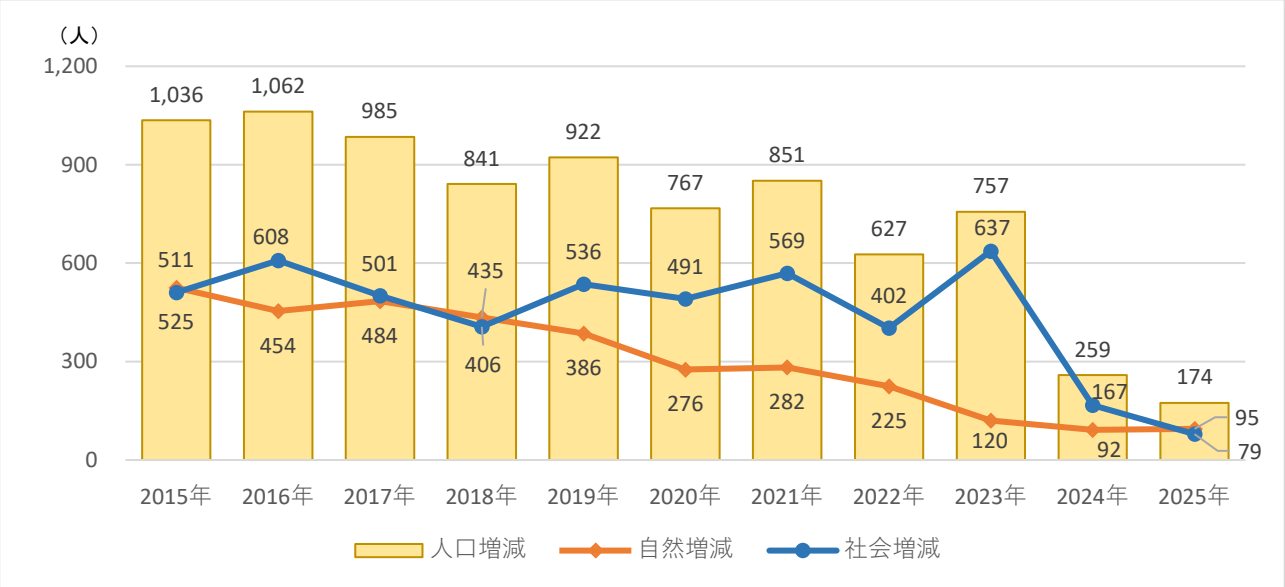
（５）人口動態

人口動態をみると、自然増加数は 2024 年には 100 人を下回り、減少傾向となっています。社会増加数は、2015 年以降は変動しつつも横ばいで推移していましたが、2024 年に 167 人となり、2025 年では 79 人と減少傾向となっています。

また、自然増減と社会増減とを合わせた人口増減の動態については、人口増の状態が続いています。

※自然増減数とは、出生数から死亡者数を引いた数を指し、社会増減数とは、転入数から転出者数を引いた数を指します。

図表 5 本市の人口動態

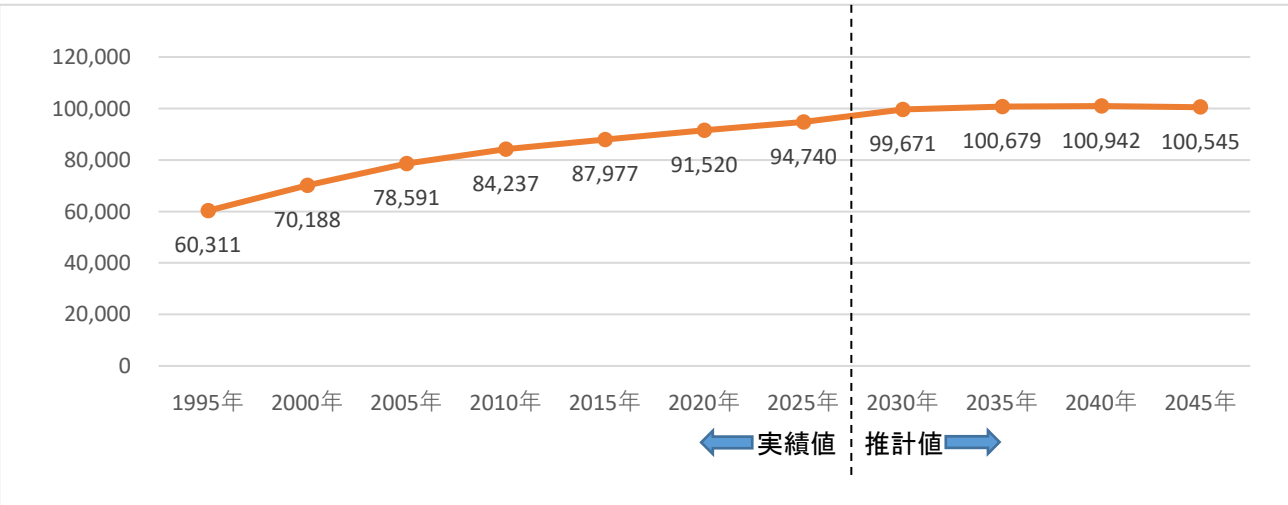


資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年１月１日）

（６）将来人口の推計

「第2期日進市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」における、将来推計人口によると、本市の人口は 2035 年頃に約 10 万人に達すると推計されています。

図表 6 本市の将来人口推計

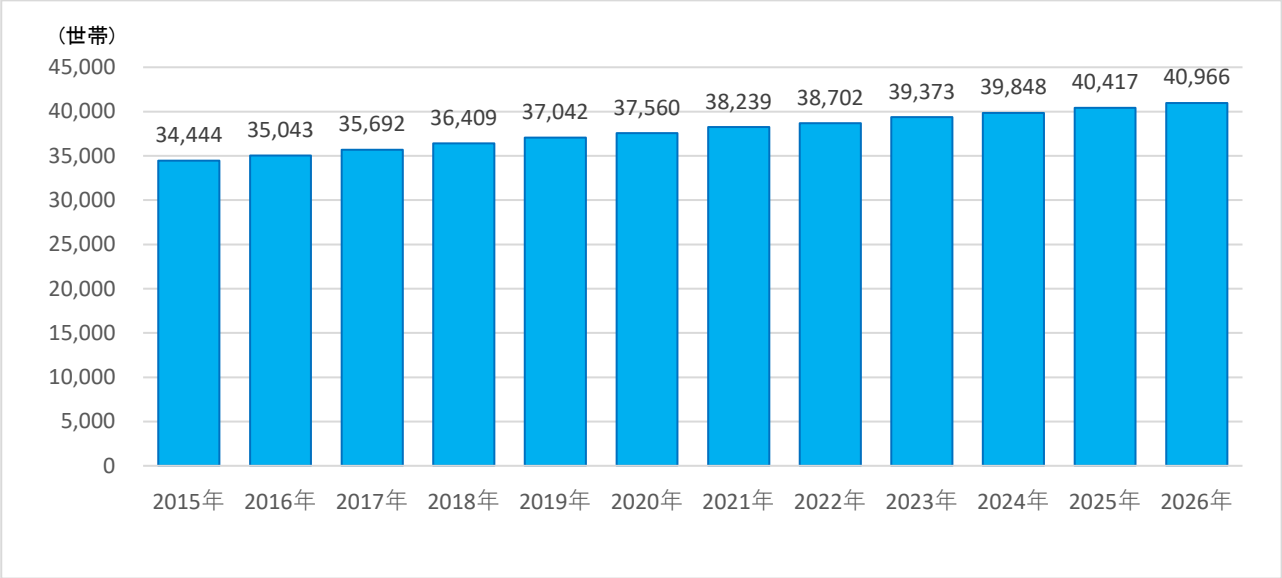


資料：1980～2025 年は国勢調査

（７）世帯数の推移

本市の世帯数は、2026 年で 40,966 世帯となっており、緩やかな増加傾向にあります。2015 年と 2026 年の世帯数を比較すると、6,522 世帯の増加となっています。

図表 7 本市の世帯数の推移



資料：日進市オープンデータ

２　生涯学習施設の現状

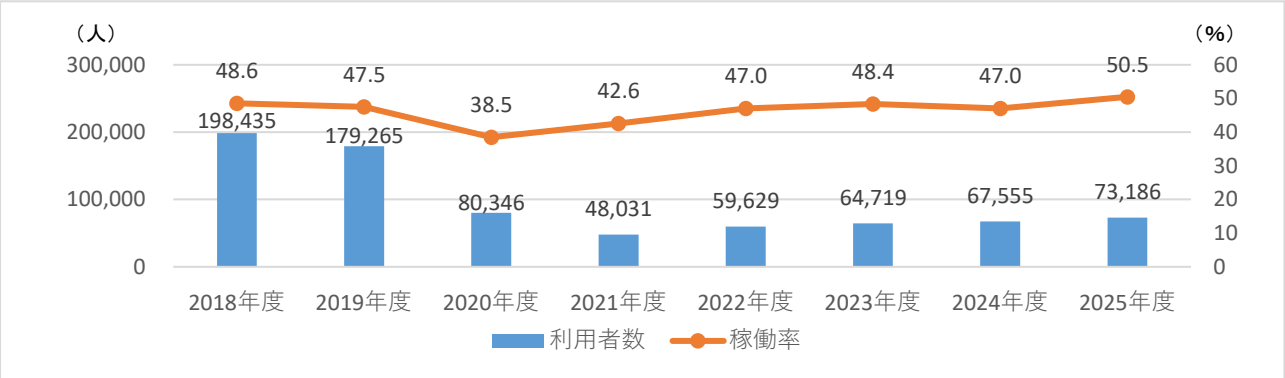
（１）市民会館（にっしんマスプロ市民会館）

市民会館は、中央公民館と勤労福祉会館の複合施設となっており、市民の文化活動の拠点となっています。大ホール、小ホール、会議室、展示ホールなどの施設があり、各種催事や展示、発表、会議などに利用されています。

利用者数、稼働率（※）の推移をみると、2019 年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年4月から感染防止対策のために、施設の閉館（2か月）、利用定員数の制限や開館時間の短縮（夜間営業の制限）などの対応を取った影響もあり、2020 年度は利用者数・稼働率ともに大幅に減少しました。

2021 年度には稼働率が増加し、48％前後で推移しています。しかし、利用者数は７万人前後で推移しています。

図表 8 市民会館の利用者数、稼働率の推移



資料：学び支援課

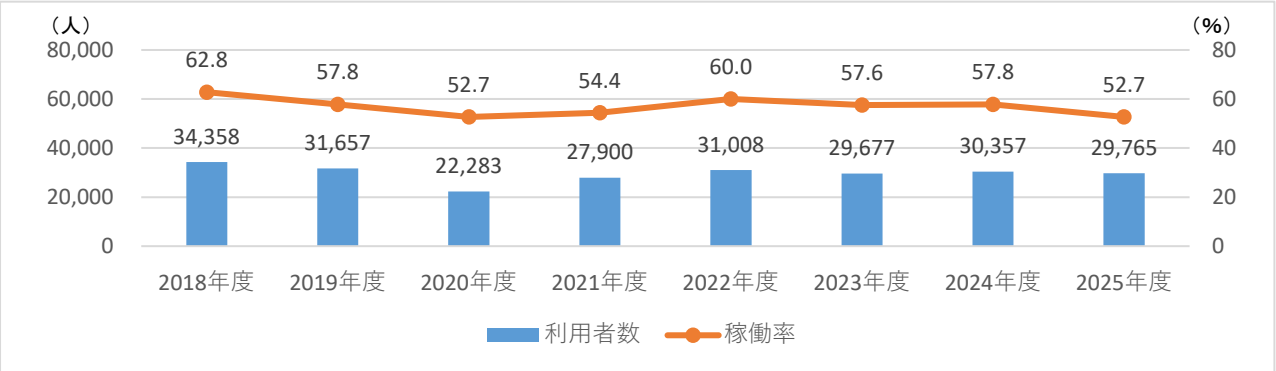
※稼働率は、開館日数を基準に算出しています。（以降、全てこれに準ずる）

（２）生涯学習プラザ

生涯学習プラザは、学習室や多目的室を備える施設であり、市民の学習活動や各種講座の開催などに利用されています。

利用者数、稼働率の推移をみると、2019 年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年4月から感染防止対策のために、施設の閉館（2か月）、利用定員数の制限や開館時間の短縮（夜間営業の制限）などの対応を取った影響もあり、2020 年度は利用者数・稼働率ともに大幅に減少しました。2021 年度以降は、稼働率が 55％前後、利用者数は３万人前後で推移しています。

図表 9 生涯学習プラザの利用者数、稼働率の推移



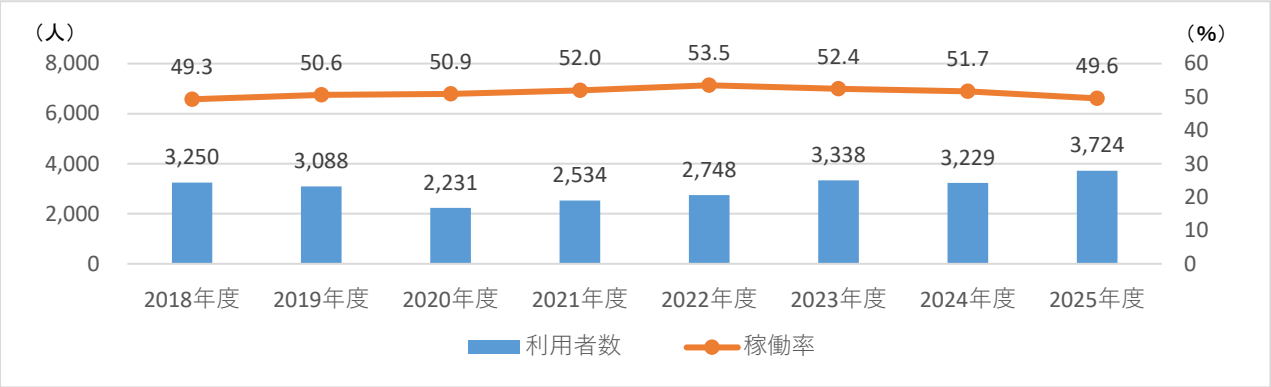
資料：学び支援課

（３）ふれあい工房

ふれあい工房は、にっしん平成ふれあいの森整備事業の一環として作られ、主に陶芸工房として利用されている他、絵付け体験などの講座を開催しています。

利用者数、稼働率の推移をみると、2019 年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年4月から感染防止対策のために施設の閉館（2か月）、利用定員数の制限などの対応を取った影響もあり、1回あたりの利用人数が減少し、2020 年度の利用者は大幅に減少しましたが、稼働率については、例年の数値を維持しています。2023 年以降、利用者数は 3,200 人を超えて推移しています。

図表 10 ふれあい工房の利用者数、稼働率の推移



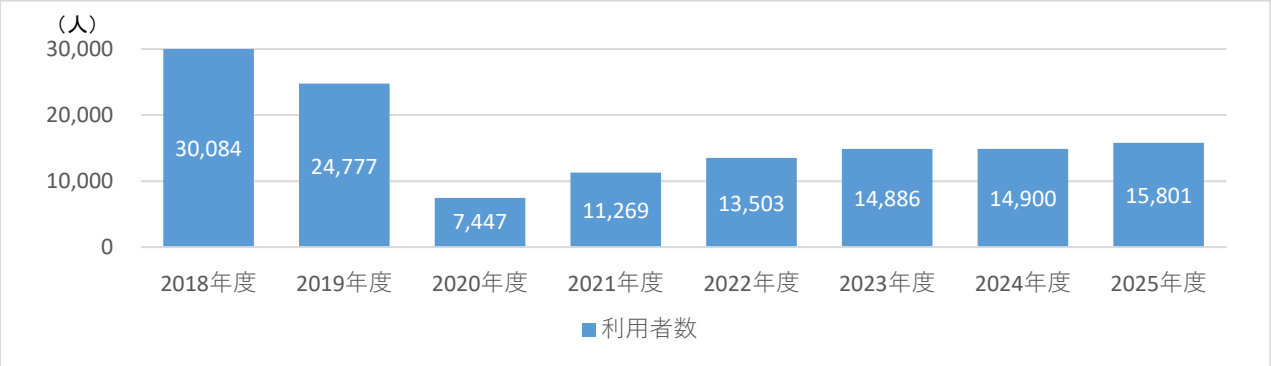
資料：学び支援課

（４）にぎわい交流館

にぎわい交流館は、本市の市民活動支援センター、国際交流・大学交流・市民交流の拠点施設となっています。にっしんわいわいフェスティバルをはじめとするイベント、市民活動団体向け講座などの開催、情報誌の発行をしています。

利用者数の推移をみると、2019 年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年4月から感染防止対策のために、施設の閉館（1か月半）、お盆期間のサロンの利用休止と会議室の新規受付休止、開館時間の短縮などの対応を取った影響もあり、2020 年度は利用者数・利用件数ともに大幅に減少しました。2021 年度以降、緩やかな増加傾向にあります。

図表 11 にぎわい交流館の利用者数の推移



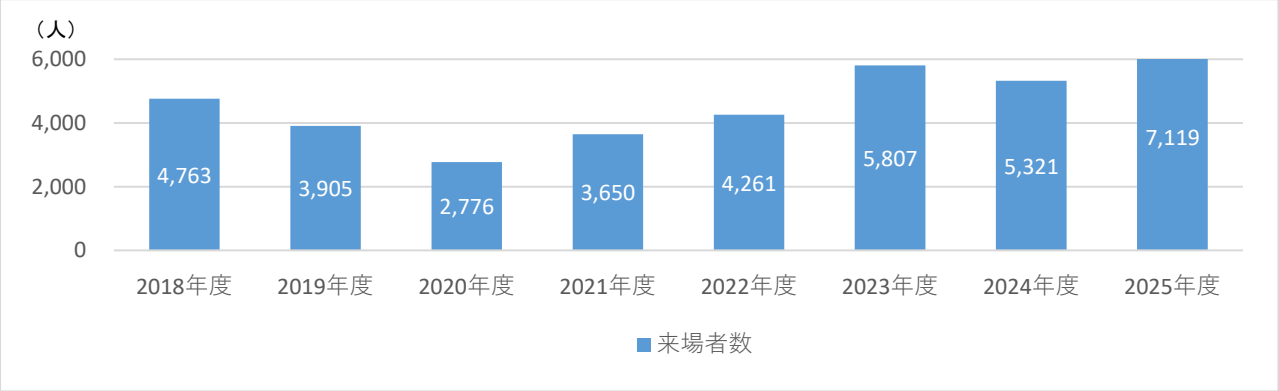
資料：地域共生課

（５） 旧市川家住宅

旧市川家住宅は、旧野方村の庄屋を務めた市川藤蔵家の住宅であり、主屋は 2013 年度に国の登録有形文化財に登録されました。2015 年度より一般公開がされており、季節ごとの展示やコンサートが開催されています。

来場者数の推移をみると、2019 年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年4月から感染防止対策のために、施設の閉館（2か月）などの対応を取った影響もあり、利用者は大幅に減少しました。2021 年度以降は緩やかな増加傾向にあります。

図表 12　旧市川家住宅の来場者数の推移



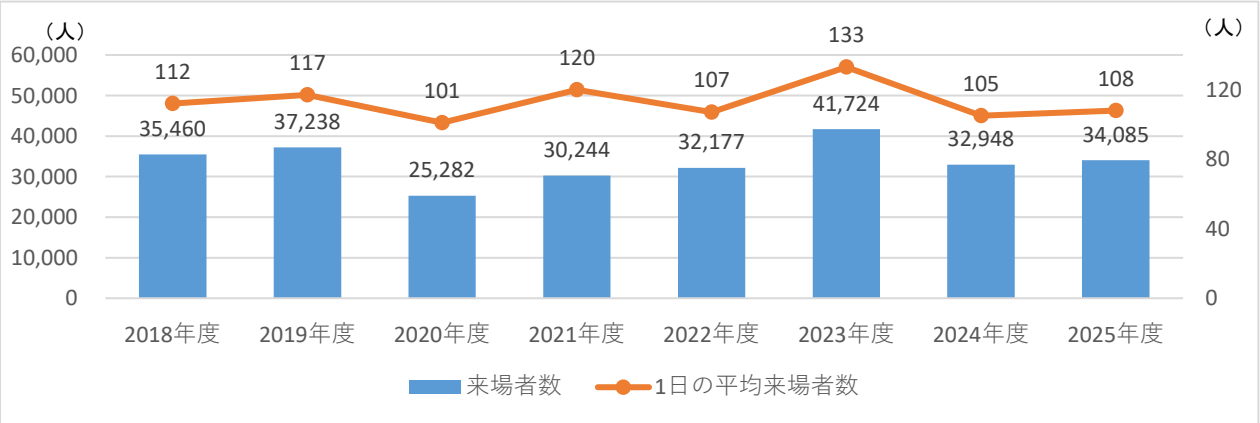
資料：産業観光課

（６） 展望塔岩崎城・歴史記念館・岩崎城址公園

岩崎城は小牧･長久手の戦いで戦略地点としての役割を果たした実績を残し、本市にとっての歴史遺産となっています。また、岩崎城歴史記念館では、本市の歴史を伝える品々が展示されています。

来場者数の推移をみると、2019 年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年4月から感染防止対策のために、施設の閉館（2か月）などの対応を取った影響もあり、2020 年度は来場者数が大幅に減少しました。2023 年度は大河ドラマに関わる企画を実施し、大幅に来場者数が増加しました。以降、年間来場者数は 33,000 人前後で、1日の平均来場者数は 110 人余りで推移しています。

図表 13　展望塔岩崎城･歴史記念館･岩崎城址公園の来場者数の推移



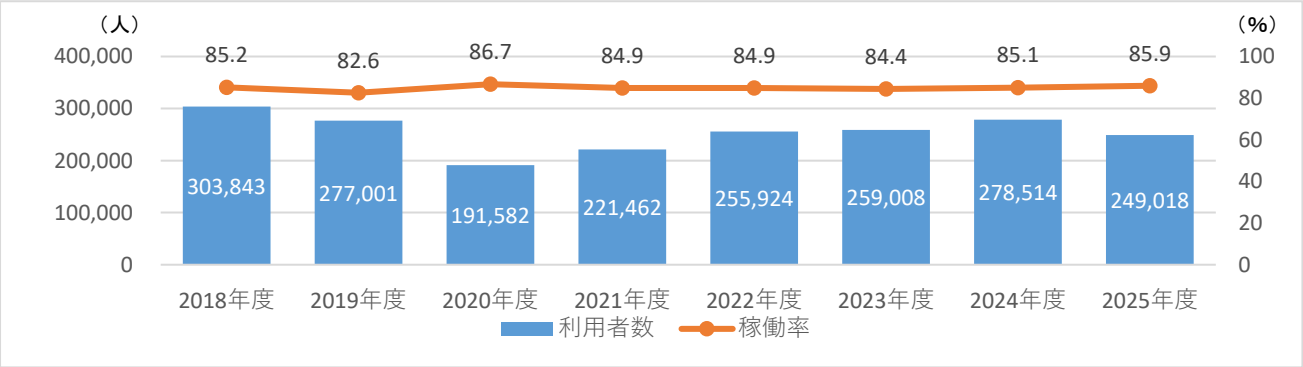
資料：産業観光課

（７）スポーツセンター

スポーツセンターは、市民の憩いの場としてスポーツやレクリエーションを楽しめる施設です。また、各種イベントやスポーツ大会の企画、運営も行っています。

利用者数、稼働率の推移をみると、2019 年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年4月から感染防止対策のために、施設の閉館（2か月）、開館時間の短縮（夜間営業の制限）、トレーニングジムの利用中止などの対応を取った影響もあり、2020 年度の利用者数は大幅に減少しましたが、施設の稼働率は増加しており、コロナ禍における利用方法の変化などが影響しているものと考えられます。2022 年度以降、利用者数は 25 万人前後で推移し、稼働率は例年の数値を維持しています。

図表 14 スポーツセンターの利用者数、稼働率の推移



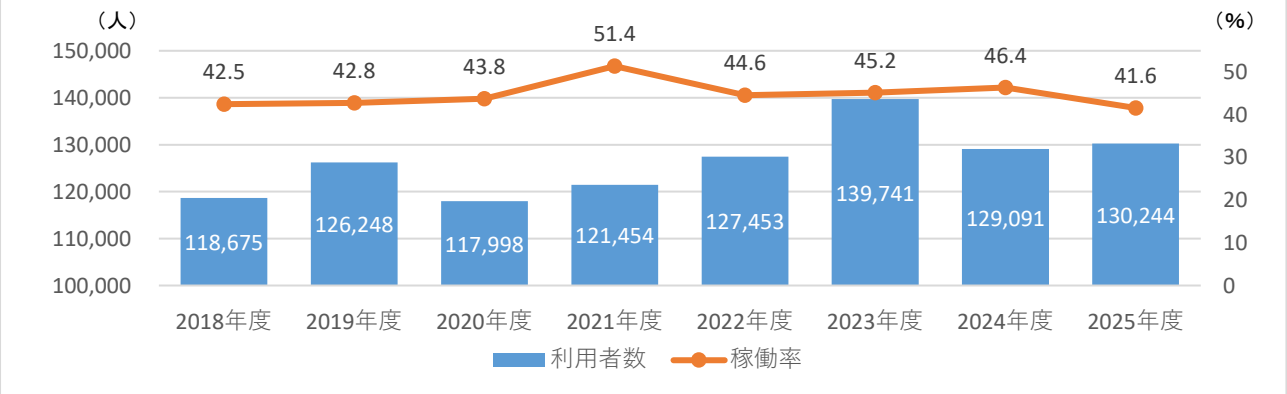
資料：学び支援課

（８）総合運動公園

総合運動公園には、野球場、スポーツ広場、テニスコート、弓道場、ジョギングコース、プールといったスポーツ施設とキャンプ場や芝生広場などのレクリエーション施設があり、各種スポーツ講座の開催や、市民の健康づくりなどに利用されています。

利用者数、稼働率の推移をみると、2019 年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年4月から感染防止対策のために、施設の閉館（1か月半）などの対応を取った影響もあり 2020 年度の利用者数は減少しましたが、施設の稼働率は増加しており、コロナ禍において屋外施設の需要が高まったことなどが影響しているものと考えられます。利用者数は 11 万人台から 13 万人台、稼働率は40%台から50%台と、増減を繰り返しながら推移しています。

図表 15 総合運動公園の利用者数、稼働率の推移



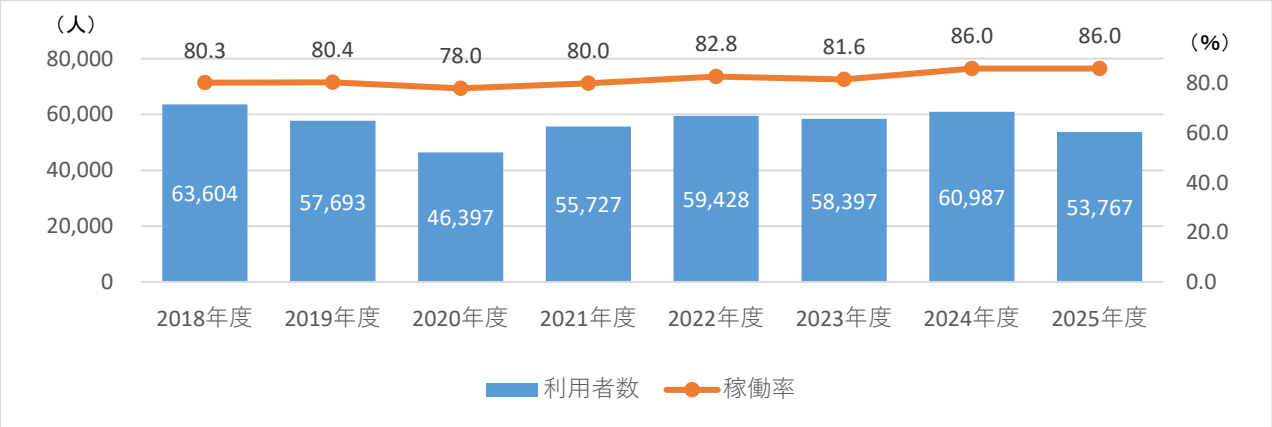
資料：学び支援課

（９） 上納池スポーツ公園

上納池スポーツ公園には、体育館、テニスコート、多目的広場があります。また、園内には健康遊具、アスレチック広場もあり、いつでも市民が気軽に利用できる施設となっています。

利用者数、稼働率の推移をみると、2019 年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年4月から感染防止対策のために、施設の閉館（2か月）、開館時間の短縮（夜間営業の制限）などの対応を取った影響もあり、2020 年度は利用者・稼働率ともに減少しました。2022 年度以降の利用者数は 6 万人前後で推移しており、稼働率は 80%程度で横ばい状態となっています。

図表 16 上納池スポーツ公園の利用者数、稼働率の推移



資料：学び支援課

（１０） 市立図書館

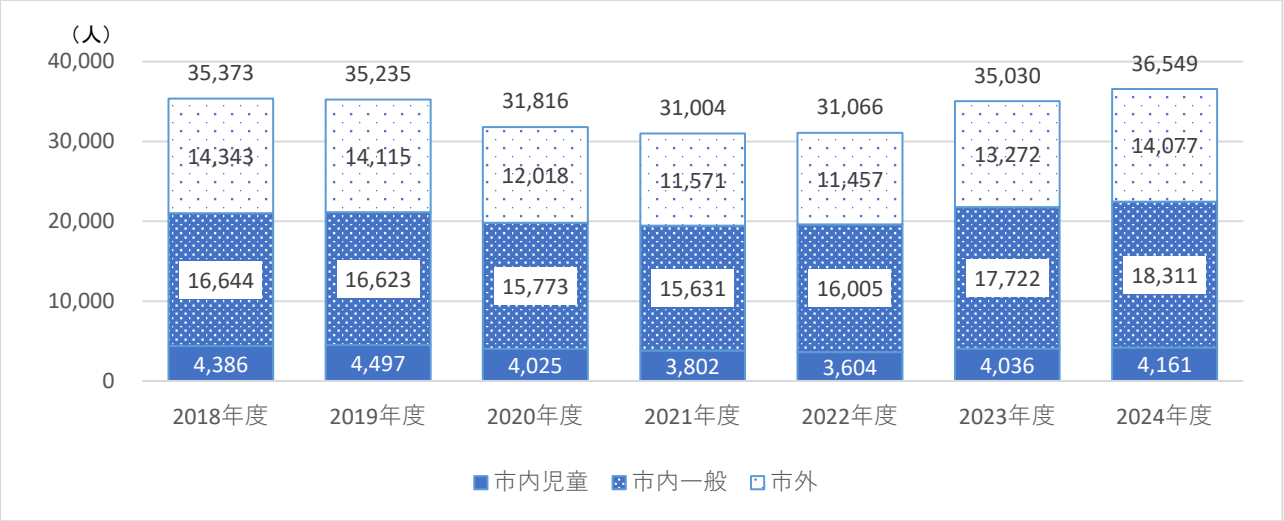
市立図書館は、「生活の中に開かれた図書館」を目指し、バランスある資料の収集と併せてレファレンスサービス事業、福祉会館・学校・保育園等への配本・回収事業、子どもの読書活動推進に関する事業等を進めています。

登録者数の推移をみると、2020 年度から 2022 年度までは市内登録者数、市外登録者数ともに減少しましたが、2023 年度以降は 2019 年度以前と同様に、市内登録者数は 21,000 人強、市外登録者数は 14,000 人強で推移しています。

入館者数は 50 万人前後で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症が流行し、2020 年3月から感染防止対策のために、臨時休館（約3か月）などの対応を取った影響もあり、入館者数は大幅に減少しました。2023 年以降は 40 万人前後で推移しています。

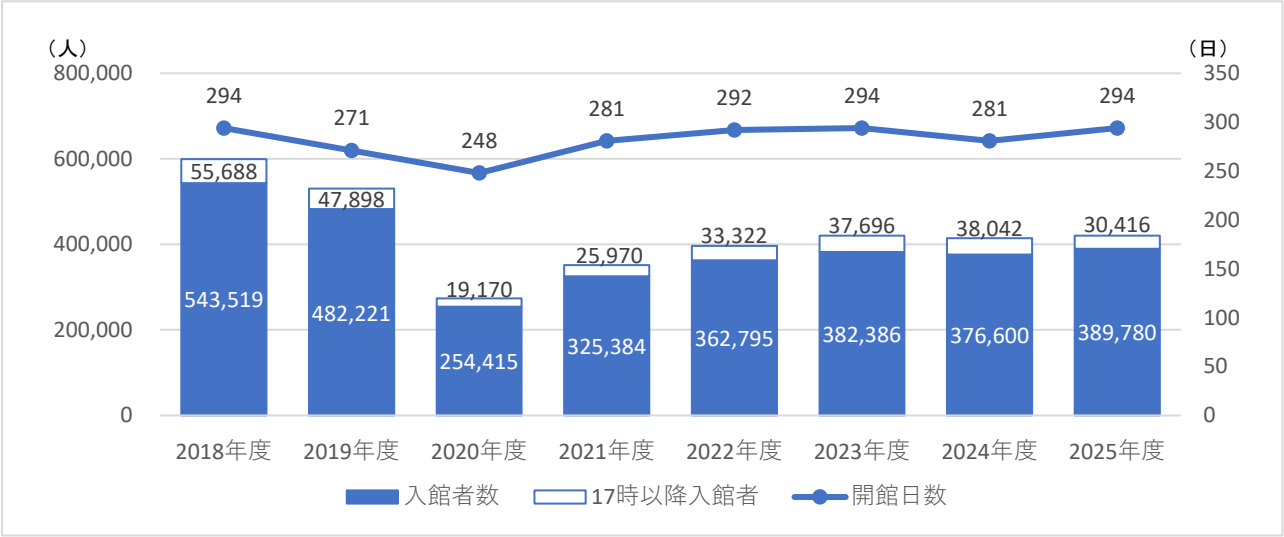
貸出点数も、2020 年度は臨時休館による影響があり、市内・市外ともに大きく減少しました。2021 年度には 966,482 点に増加しましたが、その後は緩やかな減少傾向にあります。

図表 17 登録者数の推移



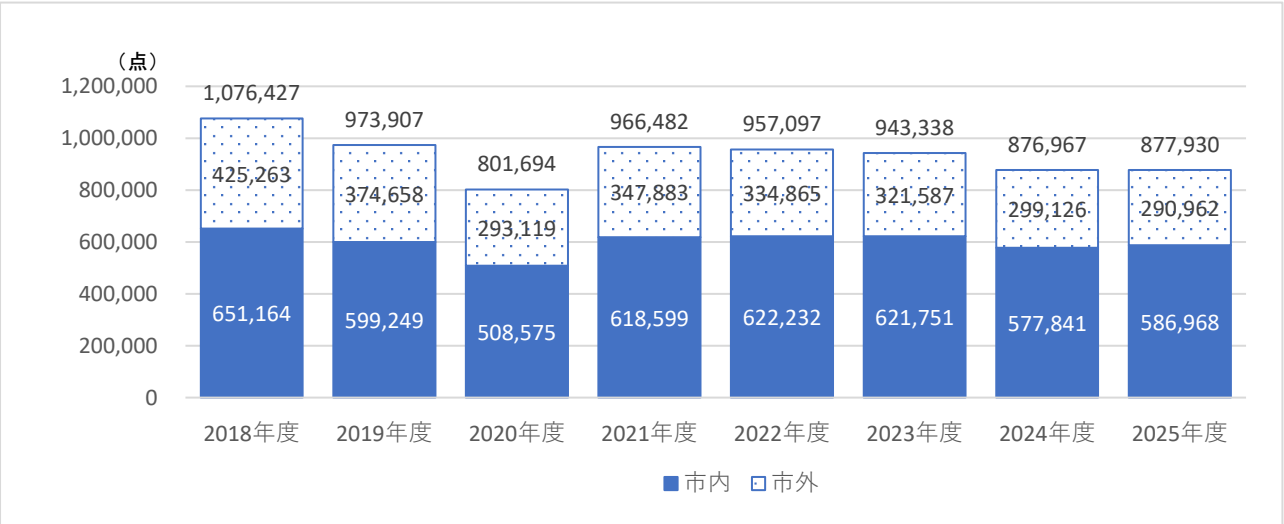
資料：市立図書館

図表 18 入館者数の推移



資料：市立図書館

図表 19 貸出点数の推移



資料：市立図書館

３　第５次生涯学習４Wプランの総括と課題

第6次日進市生涯学習4Wプランを策定するにあたり、第5次生涯学習4Wプランの計画期間中の実績と目標値を対比し、第5次生涯学習4Wプランの総括と課題を抽出しました。

第5次プラン期間中の推移をみると、令和2年度から令和3年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの事業が中止又は規模縮小となりました。令和4年度から令和6年度にかけては、事業の再開に伴い多くの指標が回復・向上しましたが、令和7年度には再び減少に転じた指標も見られます。基本目標1は多くの指標が目標値を達成又は接近した一方、基本目標2～4では目標値に対して一部達成にとどまる指標が多く、感染症の影響が緩和された後も一部の事業が完全には回復していません。

第6次プランでは、ライフステージに応じた学習機会の提供方法の工夫、シルバースクール事業など高齢者向け施策の充実、学習成果を地域で生かすための人材育成と活動機会の拡充、大学や民間教育事業者との連携による多様で質の高い学習機会の提供が求められます。

これらの課題を踏まえ、各事業の実績と背景を以下のとおり整理します。

基本目標１　地域の生涯学習活動を推進し、次代を担う人材が育つ環境を整えます

基本的施策1　学習機会の充実と発信

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
市民企画講座	提案数	40 件	28 件	35 件	26 件	27 件	23 件	40 件
	開講数	20 回	13 回	25 回	9 回	17 回	16 回	20 回
	受講者数	178 人	166 人	256 人	92 人	228 人	187 人	180 人

市民企画講座の提案数が令和2年度の40件から令和7年度は23件へと減少傾向が続き、開講数も16回で目標値20回に届いていない一方で、受講者数は令和5年度の 92 人から令和6年度 228 人、令和7年度 187 人と回復し、目標値 180 人を達成しました。市民がこれまでに培った知識や経験を生かして講師を務めることで、市民の関心やニーズに応じた学習機会の提供につながっています。

令和8年度からは、にっしんマスプロ市民会館の指定管理者による受託事業として実施しており、市民が講師として活動を始め、自立していくための支援に重点を置いています。このため、これまでの実績を踏まえて目標値を見直すとともに、今後は新たな講師の発掘・育成や、講座終了後の自主的な活動への発展を重視していきます。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
子ども企画事業	参加者数	405 人	568 人	616 人	952 人	790 人	695 人	800 人

子ども企画事業の参加者数は令和5年度の952人から695人へと減少し、目標値に届いていません。背景には、民間団体等が主体となる事業の増加や、子どもや保護者の学び・体験の選択肢の多様化に加え、事業内容の固定化などが影響していると考えられます。今後は、社会環境の変化や参加者のニーズを的確に捉え、既存事業のあり方を抜本的に見直すことも視野に入れながら、子どもや親子が魅力を感じ、主体的に参加できる事業の充実を図る必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
大学連携講座	講座数	8 回	23回	22 回	23 回	29 回	25 回	12 回
	受講者数	106 人	232人	237 人	287 人	429 人	334 人	250 人

大学連携講座は、講座数が令和2年度の8回から令和6年度に29回、令和7年度に25回となり、受講者数も106人から429人を経て334人となるなど、目標値250人を大きく上回る水準で推移しています。歴史や国際情勢を深く掘り下げる講座や、AI などの新しい技術を学ぶ講座が特に人気を集めており、大学の専門性を生かした多様で質の高い学習の提供が、市民の知的好奇心や学習意欲に応え、高い受講実績につながっていると考えられます。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
市民教室	開催講座数	14 講座	13講座	14 講座	16 講座	16 講座	16 講座	14 講座
	受講者数	386 人	705人	431 人	527 人	539 人	518 人	700 人

市民教室の開催講座数は16講座で目標の14講座を上回りましたが、受講者数は令和3年度に705人を記録した後は500人台で推移し、講座の開催機会と受講規模に差が生じています。今後は民間事業者との役割分担を踏まえ、市民が新たな学びを始めるきっかけづくりに重点を置いた講座へと再構築を図ります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
シルバースクール	開催日数	中止	7日	16 日	24 日	23 日	22 日	45 日
	受講者数		42人	52 人	63 人	53 人	53 人	110 人

シルバースクールは、令和2年度の中止から令和5年度には開催日数24日、受講者数63人まで回復しましたが、その後は横ばいで、令和7年度は開催日数22日、受講者数53人と目標値110人の半分程度にとどまり、高齢者ニーズの変化にあった事業の見直しが必要です。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
陶芸教室（毎月実施）	参加者数	504 人	458 人	463 人	610 人	808 人	776 人	550 人

陶芸教室の参加者数は458人から808人、776人と伸び、目標値550人を上回りました。特に、子ども向けの陶芸教室が人気を集めており、多くの子どもたちが参加しています。メール等を活用した周知方法の充実により、幅広い層への情報発信が図られたことも参加者数の増加と安定した受講実績につながっていると考えられます。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
日進アグリスクール中級（家庭菜園）・上級修了生の借地により活用された農地面積	農地面積	51,000㎡	84,775㎡	103,919㎡	95,873㎡	111,886㎡	89,334㎡	55,000㎡
日進アグリスクール	受講者数	283 人	498人	291 人	260 人	241 人	184 人	250 人

日進アグリスクール中級・上級修了生の借地活用面積は、令和2年度の51，000㎡から令和6年度には111，886㎡まで拡大し、令和7年度は89，334㎡と目標値55，000㎡を大幅に超過しました。一方、アグリスクール全体の受講者数は令和3年度の498人から年々減少し、令和7年度は184人で目標値250人に不足しています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
オンライン講座	開催数	5 回	16回	4 回	1 回	0 回	0 回	10 回
	受講者数	19 人	141人	28 人	5 人	0 人	0 人	100 人
オンライン講座（初心者向け）	開催数	1 回	3 回	0 回	0 回	0 回	0 回	3 回
	受講者数	19 人	33人	0 人	0 人	0 人	0 人	50 人

オンライン講座は、令和3年度に16回・141人を記録した後、令和4年度4回、令和5年度1回と減少し、令和6年度以降は開催されておらず、感染症対応後もデジタル学習機会の提供が進みませんでした。この状況を踏まえ、オンライン講座に対する市民ニーズは限定的であると判断し、今後は対面講座を中心とした学習機会の充実を図ります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
生涯学習情報誌「PLAN」	発行回数	3回	3回	3 回	3 回	3 回	3 回	3回
イベントガイド	発行回数	3回	4回	3 回	2 回	2 回	3 回	3回

生涯学習情報誌「PLAN」は、春夏号・秋号・冬号の3回継続して定期的に年間の生涯学習や文化芸術、スポーツに関する講座・イベントなどの情報を伝えることができました。

イベントガイドは、2回から4回と発行回数に差があります。小学生等向けの講座やイベントを掲載しており、夏休みや冬休み前など効果的な時期に発行することにより、実効性を高めています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
少年少女発明クラブ事業	開講数	35 回	35 回	35 回	36 回	36 回	36 回	35 回
	受講者数	100 人	100 人	100 人	120 人	116 人	119 人	100 人
子ども大学	開講数	5 回	4回	6 回	8 回	5 回	8 回	12 回
	参加者数（延べ）	81 人	72人	73 人	158 人	79 人	182 人	250 人

少年少女発明クラブ事業は開講数36回、受講者数119人と目標値を安定して達成しています。

子ども大学は、参加者数が令和2年度81人から令和7年度182人まで増加したものの、目標値250人には届いていません。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
ESD普及啓発事業	参加人数	1,522 人	1,752 人	1, 534 人	1,510 人	2,035 人	2,179 人	1,500 人
親子ふれあい遊び	参加者数	1,233 人	2,213 人	3, 468 人	5,638 人	4,904 人	4,471 人	11,500 人

ESD普及啓発事業の参加人数は1，522人から2，179人へと着実に増加し、目標値1，500人を継続して上回っています。

親子ふれあい遊びの参加者数は令和5年度の5，638人から4，471人へと減少し、いずれも目標値に届いていません。回復後に再び減少していることから、対象となる親子の動向や利用実態を確認し、開催時間、内容、周知方法などを見直す必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
青少年育成事業	開催数	1回	2 回	4 回	1 回	1 回	2 回	2 回
家庭教育講座	開催数	2回	2回	3 回	3 回	3 回	3 回	3回

青少年育成事業の開催数は令和7年度2回で目標2回を達成しました。

家庭教育講座の開催数は3回で目標を達成しました。

基本的施策2　生涯学習に関わる人材の育成･活用

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
青少年健全育成講演会	開催数	1 回	1 回	1 回	1 回	0 回	0 回	2 回

青少年健全育成講演会が令和5年度まで年1回開催されていましたが、令和6年度以降は開催されておらず、目標値2回に達していません。近年は、インターネット等の情報ツールの発達により、青少年の健全育成に関する情報を手軽に入手できるほか、関係機関や民間団体等が主催する講演会への参加機会も充実するなど、学びの環境が変化しています。今後は、こうした社会環境の変化や市民のニーズを踏まえ、行政が実施する講演会の役割や必要性を改めて検証し、開催方法や事業内容の見直しを含めた効果的な取組を検討していく必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
まちかど ネットワーク	登録者数	127 人	140人	153 人	164 人	167 人	179 人	170 人
	照会件数	2 件	2 件	2 件	1 件	2 件	2 件	10 件

まちかどネットワークの登録者数は127人から179人へ着実に増加し目標値170人を超えた一方、照会件数は計画期間を通じて1～2件で推移し、目標値10件に大きく届いていません。人材を「登録する」段階から「活用する」段階への橋渡しが十分に機能しておらず、学習成果の活用機会の拡充が課題として浮かび上がります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
社会教育活動 団体補助事業	補助対象 団体数	5 団体	5 団体	5 団体	5 団体	5 団体	5 団体	5 団体

社会教育活動団体補助事業の補助対象団体数は、令和2年度から令和7年度まで5団体を維持し、目標値を継続して達成しています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
食生活改善推進 員養成講座	修了者数	220 人	220 人	228 人	228 人	234 人	234 人	265 人
介護支援 ボランティア	登録人数	141 人	145 人	147 人	152 人	159 人	175 人	180 人

食生活改善推進員養成講座の修了者数は234人、介護支援ボランティアの登録人数は175人となり、いずれも増加傾向にあるものの目標には届いていません。

基本的施策3　文化施設の有効活用

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
指定管理者の 自主事業	実施数	136 件	207 件	209 件	214 件	208 件	218 件	200 件
	参加者数	1,756 人	2,359 人	3,131 人	3760 人	3,814 人	3,257 人	4,000 人

指定管理者の自主事業は、実施数が令和2年度の 136 件から令和7年度には 218 件へ増加し、目標値 200 件を上回っています。一方、参加者数は令和2年度の 1,756 人から令和6年度には 3,814 人まで増加しましたが、令和7年度は 3,257 人に減少し、目標値 4,000 人に届いていません。直近では実施数が増えても参加者数は減少していることから、事業の規模や対象者の違いを踏まえ、内容と市民ニーズの適合状況、募集方法などを検証することが必要です。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
大学等における生涯学習事業（子ども大学を除く）	事業数	0 件	2件	2 件	3 件	5 件	4 件	5 件

大学等における生涯学習事業の事業数は、令和2年度の0件から令和6年度には5件へ増加して目標値に達しましたが、令和7年度は4件となっています。大学等を活用した学習機会は広がったものの、目標水準の継続には至っていません。大学等との調整を継続し、教育資源や専門性を生かした事業を安定して実施できる関係構築が求められます。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
公民館・集会所の利用状況	利用率	67.00%	66.80%	83.30%	85.30%	89.30%	82.50%	77.30%

公民館・集会所の利用率は67．00%から89．30%まで上昇し、令和7年度は82．50%と目標値77．30%を上回り、地域の活動拠点が活用されています。

基本的施策4　大学と連携した生涯学習の推進

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
官学連携・協働事業	実施件数	97 件	108 件	142 件	129 件	225 件	198 件	134 件

官学連携・協働事業の実施件数は、令和2年度の 97 件から令和6年度には 225 件へ増加し、令和7年度は 198 件と、目標値 134 件を上回っています。大学との連携・協働は計画策定前と比べて広がっていますが、直近では減少しているため、連携先との継続的な情報共有や調整が必要です。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
大学生との交流事業	事業数	1 事業	1 事業	7 事業	4事業	5 事業	1 事業	12 事業

大学生との交流事業は、令和4年度の7事業から令和7年度は1事業へと減少し、目標値12事業を大きく下回りました。大学生と市民が直接交流する機会の確保には、大学の授業や学生の活動と地域のニーズを結び付け、学生が参加しやすい時期や方法を調整し、継続的な交流機会を創出する必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
食育に関心のある市民の割合	割合	65.00%		64.30%		64.40%		70.00%

食育に関心のある市民の割合は、令和2年度の 65.00%、令和4年度の 64.30%、令和6年度の 64.40%と、ほぼ横ばいで推移しています。食育に関する情報や学習機会について、関心の低い層にも働きかけることが求められます。

基本的施策5　地域資源の活用による社会参画推進と子どもの育成

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
地域学校協働本部	設置数		4 本部	4 本部	4 本部	4 本部	4 本部	4 本部
家庭教育推進委員会	事業数	59 事業	101事業	92 事業	64 事業	60 事業	101 事業	65 事業
	参加者数	2,567 人	4, 443人	6, 777 人	11,361 人	10,980 人	9,521 人	12,300 人

地域学校協働本部の設置数は、令和3年度以降4本部を維持し、目標値を達成しています。各本部の活動内容や関わる人材、学校・地域のニーズとの対応状況を把握し、体制の維持を実際の協働活動の充実につなげることが課題です。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
家庭教育推進委員会	事業数	59 事業	101事業	92 事業	64 事業	60 事業	101 事業	65 事業
	参加者数	2,567 人	4, 443人	6, 777 人	11,361 人	10,980 人	9,521 人	12,300 人

家庭教育推進委員会は、事業数が令和6年度の 60 事業から令和7年度には 101 事業へ増加し、目標値 65 事業を上回りました。一方、参加者数は令和2年度の 2,567 人から令和5年度には 11,361 人まで増加した後、令和6年度は 10,980 人、令和7年度は 9,521 人へ減少し、目標値 12,300 人に届いていません。事業数の増加が参加者数の増加に結び付いていないことから、事業規模や対象者の違いを確認した上で、家庭のニーズに合った内容や参加方法を検討する必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
市民農園	利用率	89.70%	87.44%	90.18%	93.25%	98.00%	98.00%	100.00 %
日進市内での農業体験	体験率	21.00%		21.40%				25.00 %
収穫体験	実施回数	2回	4 回	5 回	5 回	6 回	4 回	2回以上

市民農園の利用率は、令和2年度の 89.70%から令和6・7年度には 98.00%となり、目標値 100.00%に近い水準にあります。農に親しむ場として高い利用がみられるため、今後も利用しやすい環境を維持するとともに、未利用区画の状況や利用者の意向を確認し、継続的な利用に繋げます。

日進市内での農業体験の体験率は、令和2年度の 21.00%から令和4年度には 21.40%となりましたが、目標値 25.00%に届いていません。令和6年度以降、アンケートによる体験率の調査が実施されないため、他施策の指標により実績を確認していきます。

収穫体験の実施回数は、令和2年度の2回から令和6年度には6回へ増加し、令和7年度は4回となっています。各年度とも目標値の2回以上を達成しており、農に触れる体験機会が継続して提供されています。今後は、開催回数の確保に加え、参加者層や体験後の関心の変化を把握し、食育や継続的な農業体験への参加につなげることが求められます。

基本目標２　文化芸術の輪を広げ、歴史の継承と文化財の保護と活用を図ります

基本的施策1　身近に文化芸術や音楽に触れる場づくり

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
日進展･子どもアート展	出品数（日進展）	160 点	152点	164 点	153 点	152 点	176 点	170 点
	出品数（子どもアート展）	中止	329点	386 点	381 点	318 点	282 点	350 点
	来場者数	1,000 人	800人（美術展）	2, 100 人	2, 000 人	2,100 人	1,600 人	1,300 人
まちなかぎゃらりー	出品点数	51 点	70点	109 点	72 点	85 点	68 点	50 点
	開催回数	1回	2回	3 回	2 回	2 回	2 回	2 回

日進展の出品数は概ね150点台で推移した後、令和7年度に176点となり目標値170点を達成しました。

子どもアート展の出品数は、令和4年度の386点をピークに年々減少し、令和7年度は282点で目標値350点に届いていません。来場者数も令和6年度の2, 100人から1, 600人へ減少しました。

まちなかぎゃらりーは、出品点数が令和4年度の109点から増減し、令和7年度は68点と、目標値50点を上回っています。開催回数も令和7年度は2回で、目標値を達成しました。身近な場所で作品を発表･鑑賞する機会が確保されています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
にっしん文化祭	入場者数	中止	2,000 人	4,000 人	4, 328 人	4,000 人	2,800 人	5,000 人

にっしん文化祭の入場者数は、令和2年度の中止から令和5年度には4, 328人まで回復したものの、令和7年度は会場施設改修工事に伴う規模縮小開催だったため2, 800人へと減少しています。また令和6年度の4、000人と比較しても、目標値5, 000人に1, 000人不足しています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
民俗芸能発表会	来場者数	中止	中止	100 人	300 人	300 人	300 人	450 人

民俗芸能発表会は、令和4年度の再開以降100人から300人へ回復した後は横ばいで、目標値450人に150人不足しています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
にっしん音結祭	来場者数	700名	820名	837名	970名	1,130名	1,184名	700名
学校音楽アウトリーチ「音のかけはし」	実施回数		4回	9回	9 回	9 回	9 回	9 回
どこでも音楽アウトリーチ	実施回数		2回	2 回	4 回	2 回	2 回	2 回

にっしん音結祭の来場者数は700名から1，184名へと着実に増加し、目標値700名を継続して上回っています。

学校音楽アウトリーチは令和4年度以降9回、どこでも音楽アウトリーチは2回で安定的に実施され、いずれも目標値を達成しています。

基本的施策2　文化芸術を担う人材育成

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
文化協会	会員数	968 人	968人	950 人	939 人	991 人	923 人	1,000 人
にっしんヤングフェスタ	出演団体数	中止	11団体	16 団体	11 団体	14 団体	7 団体	14 団体
	来場者数		694人	1,362 人	2,000 人	2,200 人	400 人	4,000 人

文化協会の会員数は、令和6年度に991人まで増加したものの令和7年度は923人へ減少し、目標値1，000人に77人不足しています。

にっしんヤングフェスタは、令和4年度に来場者1，362人、令和6年度に来場者2，200人まで伸びた後、令和7年度は会場施設改修工事に伴う規模縮小開催だったため来場者400人へと減少しています。令和6年度の2，200人と比較しても、目標値4，000人から著しく乖離しており、若い世代の文化芸術活動への参加が課題です。

基本的施策3　歴史・伝統芸能の保護と継承

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
旧市川家住宅	来場者数	2,776人	3,650人	4,261人	5，807人	5,321人	7,119人	3,000人
旧市川家住宅での講座・イベント開催数	開催数	16 回	17回	19 回	17 回	19 回	17 回	20 回

旧市川家住宅の来場者数は、令和2年度の2，776人から毎年度増加を続け、令和7年度は7，119人となり、目標値3，000人を大幅に上回りました。

旧市川家住宅での講座・イベント開催数は16～19回で推移し、令和7年度は17回で目標値20回に届いていません。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
岩崎城歴史記念館等の管理と活用	来場者数	25,282人	30,244人	32,177人	41, 724人	32,948人	34,085人	38,000人
歴史講座と企画展	開催数	7回	10回	13 回	8 回	8 回	8 回	7回

岩崎城歴史記念館等の来場者数は、大河ドラマ関連企画を実施した令和5年度に41, 724人を記録しましたが、令和7年度は34, 085人で目標値38, 000人に不足しています。

歴史講座と企画展の開催数は令和 5 年度以降8回開催されており、目標値7回を上回っています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
伝統料理等継承事業関連講座	開催数	中止	中止	4 回	4 回	7 回	6 回	4回

伝統料理等継承事業関連講座は令和3年度までの中止を経て、令和6年度7回、令和7年度6回と目標値4回を上回る水準まで回復しました。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
民俗芸能連合会	登録人数	364 人	324人	309 人	293 人	304 人	329 人	350 人

民俗芸能連合会の登録人数は、令和2年度の364人から令和5年度には293人まで減少した後、令和7年度は329人へ回復しましたが、目標値350人に21人不足しており、伝統芸能の継承者育成が課題です。

基本的施策4　有形・無形文化財の保護と活用

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
文化財保護事業補助金	対象事業数	2事業	2事業	3 事業	1 事業	1 事業	2 事業	2 事業
香久山古窯公開	見学者数	83 人	151人	181 人	154 人	95 人	93 人	100 人

香久山古窯公開の見学者数も令和4年度の181人から93人へ減少し、目標値100人に届いていません。これらから、参加促進と情報発信の強化が必要であることが明らかになります。

基本目標３　健康で豊かに暮らすため、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します

基本的施策1　健康づくりと生涯スポーツの普及･振興

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
市民体力テスト	参加者数	中止	18人	18人	127人	113 人	144 人	100 人

市民体力テストの参加者数は、コロナ禍の影響で令和2年度の中止、令和3･4年度の18人という状況から、令和5年度に127人へ大きく回復し、令和7年度は144人となり目標値100人を上回り、市民の健康づくりや体力への関心の高まりがうかがえます。体力テストの結果を日常的な運動習慣や健康づくりにつなげていく必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
学校体育施設スポーツ開放事業	利用件数	4,810 件	4, 412 件	5,247 件	4,872 件	5,503 件	4,805 件	5,000 件

学校体育施設スポーツ開放事業の利用件数は、令和6年度に5, 503件まで増加したものの令和7年度は4, 805件へ減少し、目標値5, 000件に195件不足しています。今後は、利用状況や利用者ニーズを把握し、施設の有効活用と利用促進を図ることで、市民が身近な場所で継続的にスポーツに親しめる環境を整える必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
にっしん体操	スポット数	28 団体	29 団体	29 団体	32 団体	32 団体	33 団体	27 団体

にっしん体操のスポット数は28団体から33団体へ着実に増加し、目標値27団体を継続して上回っています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
運動普及推進員養成講座	修了者数	75 人	90 人	90 人	94 人	94 人	98 人	110 人

運動普及推進員養成講座の修了者数は75人から98人へ増加しているものの、目標値110人に12人不足しています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8年度
体操教室	参加人数（延べ）	59 人	663 人	1, 420 人	1, 480 人	1,530 人	1,543 人	2,400 人

体操教室の参加人数は、令和2年度の59人から令和4年度に1, 420人まで回復した後は1, 500人前後で横ばいとなり、令和7年度は1, 543人で目標値2, 400人に857人不足しています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8年度
おたっしゃハウス（6 館分）	参加者数（延べ）	2,790 人	4,579 人	8,260 人	11, 537 人	10,988 人	11,319 人	11,000 人
アクティブシニア倶楽部	実施館数		1 館	1 館	1館	1 館	1 館	2 館

おたっしゃハウスの参加者数は、令和2年度の2，790人から令和5年度には11，537人へと大幅に増加し、令和7年度は11，319人で目標値11，000人を上回りました。

アクティブシニア倶楽部は計画期間を通じて実施館数1館にとどまり、目標値2館に届いていません。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8年度
個別運動プログラム	実施人数および回数	28 人（94 回）	19 人（59 回）	25 人（114 回）	5 人（20 回）	10 人（44 回）	7 人（42 回）	30 人（95 回）

個別運動プログラムの実施人数は、令和2年度の28人から令和5年度には5人まで減少し、令和7年度も7人で目標値30人に23人不足しており、個別対応型の運動支援の充実が必要です。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8年度
スポーツアウトリーチ事業	事業数	1事業	2事業	2事業	3 事業	3 事業	3 事業	4 事業

スポーツアウトリーチ事業は年々事業数を伸ばしていますが、目標値には届いていません。今後は、学校や地域団体等への周知を強化し、実施機会の拡大を図ることで、市民が身近な場所でスポーツに親しむ機会を充実させる必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8年度
小学生スポーツ体験教室	実施回数		8回	12 回	12 回	12 回	10 回	12 回

小学生スポーツ体験教室は令和4年度から令和6年度まで12回で目標値を達成していましたが、令和7年度は10回へ減少しました。今後は、実施内容や開催方法を工夫し、子どもたちが多様なスポーツに親しむ機会の充実を図る必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8年度
日本トップレベル選手が教える ボート教室	参加者数	中止	中止	14 人	6 人	6 人	6 人	10 人

日本トップレベル選手が教えるボート教室の参加者数も令和4年度の14人から6人へ減少し、目標値10名に不足しています。今後は、安全面に配慮した適正な参加人数を維持しながら、トップレベル選手から直接指導を受けられる貴重な体験機会を継続して提供する必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8年度
アプリ等を活用したオンラインでのスポーツ事業	事業数	1事業	中止	未実施	未実施	未実施	未実施	2 事業

アプリ等を活用したオンラインでのスポーツ事業は、実際に体を動かせるスポーツ活動の場を提供し、市民の運動機会の充実を図りました。今後は、オンラインでのスポーツ事業に対する市民ニーズを把握し、実際の活動機会とのバランスを踏まえながら、効果的な事業の実施方法を検討する必要があります。

基本的施策2　スポーツ団体の活動支援

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
スポーツ協会	会員数	2,645 人	2,394 人	2,413 人	2, 521 人	2,586 人	2,397 人	2,700 人
レクリエーション協会	会員数	462 人	410 人	452 人	453 人	395 人	368 人	544 人
総合型地域スポーツクラブにっしんスポーツクラブ	講座数	36 講座	39 講座	39講座	40 講座	41 講座	40 講座	37 講座
	会員数	822 人	805 人	845 人	941 人	945 人	877 人	900 人

スポーツ協会の会員数は令和6年度に2，586人まで回復したものの令和7年度は2，397人へ減少し、目標値2，700人に303人不足しています。

レクリエーション協会の会員数は令和2年度の462人から令和7年度は368人へと減少傾向が続き、目標値544人に176人不足しており、団体への参加促進が課題です。

総合型地域スポーツクラブの講座数は36講座から40講座へ増加し目標値37講座を上回っています。また、会員数も令和6年度には945人と目標を上回っています。

今後は、若い世代や新規会員の加入促進を図るとともに、誰もが気軽にスポーツに参加できる環境づくりや、各団体の活動の活性化に向けた支援が必要です。

基本的施策3　スポーツ施設の有効活用

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
民間施設等におけるスポーツ事業	事業数	1 事業	1事業	1 事業	1 事業	2 事業	2 事業	2 事業

民間施設等におけるスポーツ事業は、令和 2 年度の 1 事業から令和 6 年度には 2 事業へ増加し、令和 8 年度の目標値を達成しました。今後は、企業や大学等との連携を強化し、民間施設等の有効活用を進めることで、市民がスポーツに親しむ機会の充実を図る必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
指定管理者の自主事業	実施数	284 件	396件	375 件	404 件	474 件	403 件	520 件
	参加者数	11,151 人	10, 914 人	13,827 人	15,755 人	17,207 人	16,500 人	12,000 人

指定管理者の自主事業実施数は、令和6年度の474件から403件へ減少し、目標値520件に届いていませんが、参加者数は11, 151人から16, 500人へ増加し、目標値12, 000人を上回りました。今後は、参加者ニーズを踏まえた魅力ある事業の充実を図るとともに、実施件数だけでなく参加者数や事業効果を重視した取組を推進する必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
学校体育施設スポーツ開放（全 13 校）	利用率	69.90 %	50.09 %	59.26 %	56.38 %	60.12 %	68.68 %	55.00 %

学校体育施設スポーツ開放事業の利用率は、令和3年度の50. 09%を底に年々上昇し、令和7年度は68. 68%となり目標値55. 00%を大きく上回っています。今後も、学校との調整を図りながら、利用可能な施設の有効活用と安定的な利用機会の確保に努める必要があります。

基本的施策4　地域連携と人材活用

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
トップアスリート事業	実施回数	1回	1回	2回	2 回	2 回	2 回	2回
愛知池駅伝	実施回数	1回	1回	1回	1 回	1 回	1 回	1回

トップアスリート事業及び愛知池駅伝はいずれも目標値どおり継続して実施し、市民がスポーツに親しむ機会の提供を図りました。今後も継続的な開催に努めるとともに、事業内容の充実や参加促進を図り、市民のスポーツへの関心を高める必要があります。

基本目標４　心の豊かさを育み、より良い読書活動を推進します

基本的施策1　多様な図書館サービスの充実

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
配本施設数	施設数	17 施設	17 施設	19 施設	19 施設	19 施設	19 施設	20 施設

配本施設数は令和2年度の17施設から令和4年度に19施設へ拡充され、その後も維持しており、目標値20施設にあと1施設となっています。19施設への拡充により、施設の種別や位置的にも市内を網羅しています。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
「図書館の施設及び機能を活用した総合的な啓発事業」の開催	開催回数	1 回	3 回	2回	6 回	11 回	9 回	5 回

「図書館の施設及び機能を活用した総合的な啓発事業」の開催回数は、令和2年度の1回から令和6年度の11回まで増加し、令和7年度は9回となり、目標値5回を上回りました。複合施設としての機能を活用した事業は、来館のきっかけとなることが期待されます。今後は読書活動につながるよう、一過性のものとならない事業を精査して実施することが求められます。

基本的施策2　図書館ネットワークの強化

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
他部署等との連携事業数	事業数	2 事業	4 事業	4事業	3 事業	3 事業	2 事業	5 事業

他部署等との連携事業数は、令和3・4年度の4事業から令和7年度は2事業へと減少し、目標値5事業に3事業不足しています。テーマ型で連携する事業であることから、施設利用に加え、様々な視点から図書館を活用できる可能性があることを周知する必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
ブックスタート事業絵本配布数	配布数	932 冊	865 冊	855 冊	813 冊	809 冊	762 冊	1,000 冊

出生数が減少したため、ブックスタート事業絵本配布数は令和2年度の932冊から毎年度減少を続け、令和7年度は762冊で目標値1，000冊に238冊不足しています。事業を継続実施し、配布数ではなく実施率での実績把握に変更します。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
学校配本の数	配本数	2,784 冊	1,665 冊	1,647 冊	1, 824 冊	1,980 冊	2,022 冊	3,700 冊

学校配本の数は、令和3年度に1，665冊まで落ち込んだ後、令和7年度は2，022冊へと回復傾向にあるものの、令和2年度の2，784冊を下回り、目標値3，700冊に1，678冊不足しています。しかし、令和5年に学校図書館との連携システムを導入し、学校配本の他にも学校への図書提供を行っており、実質的な令和7年度の図書提供は 3,723 冊で目標値を超えています。引き続き学校配本の利用促進を行いつつ、他の方法でも図書館と学校の連携を進めていく必要があります。

指標名		実績						目標
		R2 年度	R3年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
ボランティアが主体となって開催した啓発事業の数	事業数		2 事業	2 事業	4 事業	4 事業	3 事業	3 事業

ボランティアが主体となって開催した啓発事業の数は、令和3年度の2事業から令和5･6年度に4事業まで増加し、令和7年度は3事業で目標値を達成しています。本計画に位置付けられている継続性のあるボランティア活動を推進するため、毎週のおはなし会や本の修理などの日常的な取組を主な活動とし、啓発事業数は現状を維持します。

第３章　本計画の施策の展開と市の考え方

１　生涯学習４W プランの基本理念

本市では、すべての市民が生涯にわたり、生きがいをもって暮らすことができるように、生涯学習の推進をしてきました。

本計画においても、これまでの生涯学習４W プランの基本理念、「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」の4つの W を軸に、すべての市民が一人ひとりの能力と個性を伸ばし、それぞれの人生を豊かなものとするため、年齢・性別・国籍・文化・習慣・障害の有無に関わらず、だれもが学習の機会を得られ、文化芸術やスポーツ、読書に親しみ、生涯を通じての生きがいや充実感を得ることができるような環境づくりを進めます。

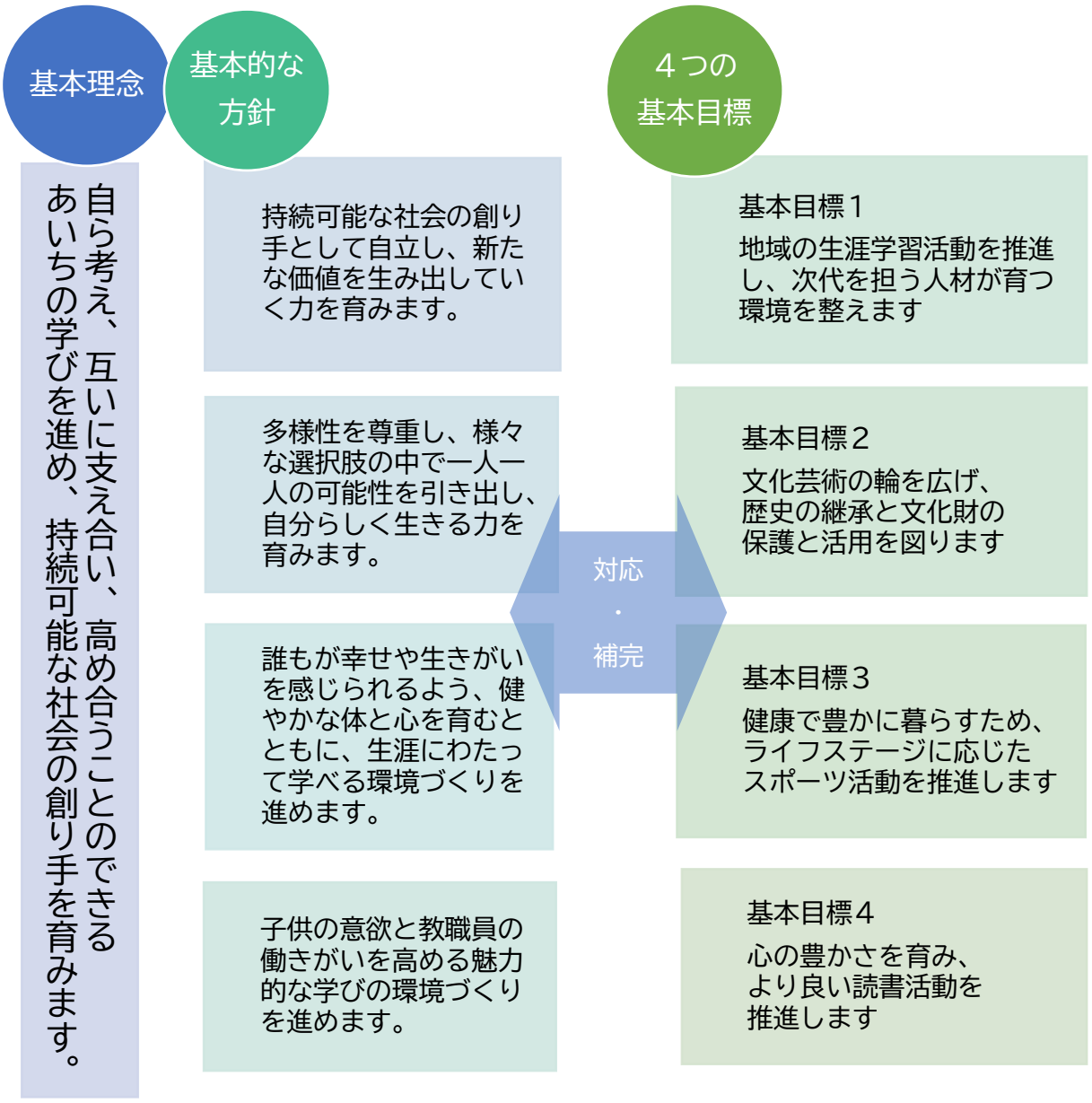
「いつでも」「どこでも」
「だれでも」「なんでも」
目指せ4つのW



■When　いつでも　■Where　どこでも　■Who　だれでも　■What　なんでも

２　基本理念と基本的な方針

「第五次愛知県教育振興基本計画」は、生涯学習施策、子供読書活動施策、学校教育情報化施策の3つの計画を統合し、策定されました。基本理念を「自ら考え、互いに支え合い、高め合うことのできるあいちの学びを進め、持続可能な社会の創り手を育みます。」とし、4つの基本的な方針を掲げて、生涯学習施策を展開しています。この基本理念と基本的な方針は、本計画の４つの基本目標と対応しており、相互に補完しながら、生涯学習社会の実現を目指します。



３　４つの基本目標

本計画では、「第6次日進市総合計画」及び「第2次日進市教育振興基本計画」に基づき、今後4年間で取り組むべき施策についての考え方を示します。

基本目標１
地域の生涯学習活動を推進し、次代を担う人材が育つ環境を整えます

本市はこれまでに、誰もが豊かで生きがいのある暮らしを送ることができるまちを目指し、生涯学習を推進してきました。しかし、生涯学習への参加者の減少や趣味やスポーツ活動への偏り、地域活動への参加者が少ないなど課題も見受けられます。

人生 100 年時代を迎えるにあたり、豊かな人生を送るためには、学びによって個人が自己を高め自立することが求められています。その学びを通じて地域や人とのつながりが構築され、将来世代につながる新たな価値観や行動を生み出していく生涯学習社会を展開することが期待されています。

生涯学習の推進には、学んだ「経験」や「知識」を発信し、他者と共有・発展させ還元していく社会の構築や機会、手段の多様化が必要です。AIなどの技術が急速に進展する中、本市においても、年齢や経験を問わず誰もが新たな技術に触れ、学ぶことができる機会を確保するとともに、市民一人一人がその学びを地域に活かせる環境づくりを進めます。

第6次計画では、誰もが気軽に学ぶことのできる学習機会の提供はもちろんのこと、学んだことを活用できる機会を提供し、世代を超えて地域で学び合うことのできる「知の循環型社会」の構築を目指した生涯学習を推進していきます。

特に次代を担う子どもたちに地域学習の場を提供することで、多様な学習活動を支援し、自ら考え行動する社会性をもった人材の育成を目指します。

基本目標２
文化芸術の輪を広げ、歴史の継承と文化財の保護と活用を図ります

これまで本市では、文化活動を行う団体を中心に支援を行い、文化活動の振興を図ってきましたが、鑑賞者や参加者となる幅広い市民への取り組みは十分に行われておらず、行事や活動の場が一部の市民の参加にとどまっている現状があります。

文化芸術は人々の心を癒すだけでなく、豊かな創造性を育み、活動を通じた人々の交流を生み出し、時として社会課題を解決する手段にもなります。市民が文化芸術と生活の関わりを実感できるよう、年齢や性別等に関係なく文化芸術に触れられる機会をつくり裾野を拡げることが、豊かな地域社会の実現につながると考えられます。

また、本市の歴史・伝統芸能や文化財は重要な財産として、その価値や魅力を市民が共有し、次代へと継承していく環境を整えていくことが必要です。

文化の裾野を拡げるとともに、将来の文化の担い手や架け橋となる人を育て、市民が「人と文化」「人と人」のつながりを実感し心豊かな生活を送れる環境づくりを目指します。

基本目標３
健康で豊かに暮らすため、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します

本市では、平成22年に「日進市スポーツ振興基本計画」を策定し、いつでも、どこでも、だれでも気軽にスポーツができる環境の構築に取り組んできました。

近年では、スポーツの役割は心身の健康のためだけでなく、生涯を通じた生きがいの創出や市民協働のまちづくりのきっかけ、人々の交流機会など多岐にわたっており、これまでよりもさらに生涯スポーツへの取り組みが重要視されるようになっています。

今後もスポーツ推進の環境整備を継続するとともに、それぞれの体力や年齢、能力、技術、興味、目的に応じたスポーツ活動を推進し、障害の有無等に関わらず、市民が心身ともに健康で活力ある生活ができる環境づくりを目指します。

基本目標４
心の豊かさを育み、より良い読書活動を推進します

近年、市立図書館の利用者数や貸出冊数、啓発事業の参加者が減少傾向にあり、これらは市立図書館の事業が市民に広く知られていないことも要因の一つとして考えられます。

今後は多様な図書館サービスの充実を図り、周知することで、「誰もが知る自由が保証され、いつでも利用できる図書館」、「いつでも生活する上で必要な情報が得られる図書館」として、本を読んで楽しみ、生活の知恵を得て、身体の健康とともに心の豊かさを育むことができるように地域とともに読書活動を推進します。

特に、子どもたち自身が読書習慣を身につけ、広い知識と豊かな情報を得て、健全に育つよう「日進市子ども読書活動推進計画」を遂行します。

４　施策の体系

基本理念	基本目標	基本的施策
「いつでも」 「どこでも」 「だれでも」 「なんでも」 目指せ4つのW	**基本目標1** 地域の生涯学習活動を推進し、次代を担う人材が育つ環境を整えます 	1.　学習機会の充実と発信
		2.　生涯学習に関わる人材の育成・活用
		3.　文化施設の有効活用
		4.　大学と連携した生涯学習の推進
		5.　地域資源の活用による社会参画推進と子どもの育成
	基本目標2 文化芸術の輪を広げ、歴史の継承と文化財の保護と活用を図ります 	1.　身近に文化芸術や音楽に触れる場づくり
		2.　文化芸術を担う人材育成
		3.　歴史・伝統芸能の保護と継承
		4.　有形・無形文化財の保護と活用
	基本目標3 健康で豊かに暮らすため、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します 	1.　健康づくりと生涯スポーツの普及・振興
		2.　スポーツ団体の活動支援
		3.　スポーツ施設の有効活用
		4.　地域連携と人材活用
	基本目標4 心の豊かさを育み、より良い読書活動を推進します 	1.　多様な図書館サービスの充実
		2.　図書館ネットワークの強化

内 容	No.
①生涯学習のきっかけづくり講座、市民主体講座の実施 ②広報誌やチラシによる生涯学習情報の提供 ③青少年の健全育成支援 ④家庭教育や親子参加型講座の実施、多様な講座の充実	1-7 8-9 10-12 13-15
⑤自主性を育む講座の実施・地域を担う人材の育成と活用 ⑥団体活動の支援 ⑦ボランティア活動の推進	16-20 21-22 23-25
⑧文化施設の有効活用	26-31
⑨大学の専門性を活かした事業の実施	32-36
⑩地域による青少年の健全育成の支援と社会参画の推進 ⑪体験活動・地域活動の支援	37-42 43-45
⑫文化芸術に触れる場としての公共施設等の活用 ⑬文化芸術イベントの継続実施、鑑賞・活動機会の提供 ⑭音楽に触れる機会の充実	46 47-50 51-53
⑮文化芸術活動者に向けた継続支援 ⑯子どもが文化芸術に触れる機会の提供	54-56 57-58
⑰郷土歴史や文化を学習する機会の充実 ⑱民俗芸能の保存と継承活動の支援	59-62 63-64
⑲文化財の保護・管理・活用	65-67
⑳スポーツによる健康づくりの機会提供、普及啓発 ㉑子どもがスポーツに親しむ機会の創出	68-73 74-76
㉒スポーツ協会やレクリエーション協会等のスポーツ団体の活動支援	77-79
㉓スポーツ施設の有効活用	80-83
㉔地域連携によるスポーツ活動支援	84-86
㉕図書館事業の推進	87-89
㉖図書館ネットワーク環境の整備 ㉗図書館ボランティア活動の推進	90-92 93

第４章　施策の内容

基本目標１　地域の生涯学習活動を推進し、次代を担う人材が育つ環境を整えます

１．学習機会の充実と発信

市民一人一人が、豊かな生活を送るためには各個人が自身に合わせた学習課題を選択し、自主的に活動に取り組むことが必要となります。従来の市民教室などの継続実施はもちろんのこと、市民団体や各施設と連携した講座の実施によって、多様な分野の学習機会や学習の場の充実を図ります。また、平日の夜間や土曜日、日曜日の学習プログラムを実施することで、自分に合った学習スタイルや興味のある分野を発見できるような機会の充実を図ります。また、社会の変化に応じて求められる知識や技能も変わっていくことから、市民の関心やニーズに応じて学べる機会の充実に努めます。

学習プログラムに関する情報を集約・整理するほか、生涯学習情報誌だけでなくインターネットなどの活用により多様な媒体で情報発信を行い、いつでもだれでも情報を入手できる環境を整えます。

①生涯学習のきっかけづくり講座、市民主体講座の実施

No	具体的な取組	内　　容
1	市民企画講座 （学び支援課）	地域の人材を発掘するため市民の提案による企画を取り入れることで、多様な学び場を提供し、市民が主体となった市民相互の学びの循環、市民同士の交流を促進し、地域の活性化につながる講座を実施します。
2	子ども企画・運営事業 （学び支援課）	子どもの主体性や協調性、社会性などの自己形成を助け、自己肯定感を高めるとともに、自身の様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようなキャリア教育の推進を図る事業を実施します。
3	大学連携講座 （学び支援課）	市内外の連携協力協定を締結している大学との連携事業です。各大学の専門性を活かした生涯学習の機会を創出します。
4	市民教室 （学び支援課）	幅広い世代の人を対象に、新たなチャレンジのきっかけづくりと様々な種類の生涯学習の機会の創出のため実施します。
5	アクティブシルバーカレッジ （学び支援課）	おおむね 60 歳以上の方を対象として、日々をいきいきと過ごせる学びの提供や、規則正しい生活リズムづくり、参加者同士の交流の機会創出を支援する事業を行います。
6	陶芸教室事業 （学び支援課）	ふれあい工房を活用して、陶芸文化に接する機会の提供と情報発信のため、毎月の陶芸教室と夏休み親子＆子ども陶芸教室を実施します。
7	日進アグリスクール事業 （農政課）	「農」と触れ合い、「農」のある暮らしを実践するとともに、農家の後継者や新たな担い手を育成するため、農業体験や農作業に必要な基礎的な知識及び技術を、受講者のレベルに応じて習得できる学びの場を提供します。

②広報誌やチラシによる生涯学習情報の提供

No	具体的な取組	内　　容
8	生涯学習情報誌「PLAN」の発行 （学び支援課）	生涯学習に関する情報の提供のため、年 3 回、全戸に生涯学習情報誌「PLAN」を配布します。
9	小中学生向け生涯学習イベントチラシの発行 （学び支援課）	小中学生向けの生涯学習に関する情報の提供のため生涯学習イベントチラシを随時発行し、市内小中学校にて配布します。

③青少年の健全育成支援

No	具体的な取組	内　　容
10	青少年健全育成講座 （学び支援課）	青少年の健全育成を図り、キャリア教育の推進につながる講座を開催します。
11	少年少女発明クラブ事業 （学び支援課）	普段では経験できないものづくり体験に触れ合うことで、科学的・工業的分野に興味を持ち、地域の産業を支えるような人材を育成する事業を実施します。
12	子ども大学 （学び支援課）	市内外の連携協力協定を締結している大学との連携事業です。主に小学生を対象として、各大学のキャンパスを活用し、専門性を活かした生涯学習の機会を創出します。

④家庭教育や親子参加型講座の実施、多様な講座の充実

No	具体的な取組	内　　容
13	家庭教育講座 （学び支援課）	親子や世代間の絆を深めることを目的とした親子参加型や多世代交流型の講座を開催します。
14	ESD普及啓発事業 （環境課）	SDGs達成に貢献するため、日進市 ESD 推進基本方針に基づく人づくりを目的とした ESD 講座を開催します。
15	親子ふれあい遊び事業 （福祉会館）	地域で子育てを支援する場として、未就園児とその保護者のふれあいや保護者同士の交流の場づくりの提供など、親子ふれあい遊びを通し子育て支援を行います。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
市民企画講座	提案数	27 件	23 件	20 件
	開講数	17 回	16 回	7 回
	受講者数	228 人	187 人	150 人
子ども企画事業参加者数	参加者数	790 人	695 人	800 人
大学連携講座	講座数	29 回	25 回	20 回
	受講者数	429 人	334 人	300 人
市民教室	開催講座数	16 講座	16 講座	7 講座
	受講者数	539 人	518 人	175 人
アクティブシルバーカレッジ	開催日数	R8年度にシルバースクールから移行		30 日
	受講者数			90 人
陶芸教室（毎月実施）	参加者数	808 人	776 人	850 人
生涯学習情報誌「PLAN」	発行回数	3 回	3 回	3 回
イベントガイド	発行回数	2 回	3 回	3 回
青少年育成事業	開催数	1 回	2 回	2 回
少年少女発明クラブ事業	開講数	36 回	36 回	36 回
	受講者数	116 人	119 人	120 人
子ども大学	開講数	5 回	8 回	8 回
	参加者数（延べ）	79 人	182 人	150 人
家庭教育講座	開催数	3 回	3 回	3 回
日進アグリスクール	受講者数	241 人	184 人	250 人
ESD普及啓発事業	参加人数	2,035 人	2,179 人	3,500 人
親子ふれあい遊び	参加者数	4,904 人	4,471 人	5,000 人

２．生涯学習に関わる人材の育成・活用

現在、市内で活動している生涯学習団体の情報を収集・把握し、活発な学習活動を支援するとともに、その情報を周知することで、市民の生涯学習活動への参加意識が高まるよう啓発します。

また、自主的に学習に取り組む市民が講座を企画できる機会を提供し、地域で活動を行う人材の育成を推進します。

各種講座の講師として活躍できるような技能や経験を有する市民を発掘するため、講師登録システム「まちかどネットワーク」を活用し、登録者の増加、利用者の増加を図ります。

⑤自主性を育む講座の実施・地域を担う人材の育成と活用

No	具体的な取組	内　　容
16	市民企画講座 【再掲】 （学び支援課）	地域の人材を発掘するため市民の提案による企画を取り入れることで、多様な学び場を提供し、市民が主体となった市民相互の学びの循環、市民同士の交流を促進し、地域の活性化につながる講座を実施します。
17	青少年健全育成講演会 （学び支援課）	次代を担う子どもや若者が健やかな成長を遂げるため、青少年の健全育成を図り、キャリア教育の推進につながる講演会を開催します。
18	少年少女発明クラブ事業 【再掲】 （学び支援課）	普段では経験できないものづくり体験に触れ合うことで、科学的・工業的分野に興味を持ち、地域の産業を支えるような人材を育成する事業を実施します。
19	「まちかどネットワーク」の整備 （学び支援課）	「何か学んでみたい」人と「特技や知識を活かしたい」人の思いを結ぶための生涯学習人材情報制度「まちかどネットワーク」の活用を図ります。
20	家庭教育講座 【再掲】 （学び支援課）	親子や世代間の絆を深めることを目的とした親子参加型や多世代交流型の講座を開催します。

⑥団体活動の支援

No	具体的な取組	内　　容
21	社会教育活動団体補助事業 （学び支援課）	社会教育活動団体の活動の活性化を図るため、情報提供や財政的支援を行います。
22	にぎわい交流館登録団体のウェブサイト掲載 （地域共生課）	社会教育活動団体を含む市民活動団体の活動の活性化を図るため、登録団体について、にぎわい交流館のホームページにおいて情報提供を行います。

⑦ボランティア活動の推進

No	具体的な取組	内　　容
23	食生活サポーター育成・養成事業 （健康課）	食育等を通じて食生活改善を応援する活動に取組んでいるボランティア「食生活サポーター」を市民の健康づくりの担い手として育成するため、研修会の実施などの活動を支援します。また、「食生活サポーター」養成講座を開催します。
24	介護支援ボランティア事業 （介護福祉課）	介護予防と生きがいの創出を図る事業として、65歳以上の高齢者による介護施設等でのボランティア活動実績に応じてポイント付与を行います。
25	指定管理者が行うボランティア支援事業 （地域福祉課）	中央福祉センターの指定管理者において、関係機関等と連携しながら、福祉サービスに関する情報やボランティアに関する情報、助成金情報などを幅広く収集し、住民からの相談に応じて情報を提供できる環境を整えるなど活動支援を実施します。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6年度	R7年度	R12 年度
まちかどネットワーク	登録者数	167　人	179　人	200　人
	照会件数	2　件	2　件	5　件
社会教育活動団体補助事業	補助対象団体数	5 団体	5 団体	5 団体
食生活サポーター養成講座	修了者数	234　人	234　人	240　人
介護支援ボランティア	登録人数	159　人	175　人	180　人

３．文化施設の有効活用

本市が設置する文化施設の運営については、指定管理者制度を導入し、市民サービスの向上を図っています。

市民の誰もが使いやすい施設を目指し、計画的な修繕や維持管理、設備・備品の充実を進めるほか、施設利用情報の提供や活用方法の提案を行い、幅広い市民の利用を促進します。また、利用の少ない時間帯の教室開催など、指定管理者の自主事業を充実させることで施設の有効活用を図ります。

さらに、公民館・集会所が地域コミュニティにおける活動や学びの場として提供されるよう、区・自治会を支援していきます。

また、市内大学等と連携し、大学等施設を有効活用した事業を展開していきます。

⑧文化施設の有効活用

No	具体的な取組	内　　容
26	指定管理者の自主事業 （学び支援課）	文化施設（市民会館、生涯学習プラザ、ふれあい工房）の指定管理者において、一般利用の少ない時間帯に施設を活用した生涯学習講座を実施します。
27	旧市川家住宅の保存と活用 （産業観光課）	国登録有形文化財である旧市川家住宅の保存と、古民家を活用した事業を実施します。また事業の一部を旧市川家活用協力会と連携して実施します。
28	岩崎城歴史記念館等の管理と活用 （産業観光課）	歴史に関する講座や展示を行い、日進の歴史を学習する機会を市民に提供します。
29	大学等施設の有効活用 （学び支援課）	市内大学等と連携し、大学等の施設を活用して事業を実施します。
30	子ども大学 【再掲】 （学び支援課）	市内外の連携協力協定を締結している大学との連携事業です。主に小学生を対象として、各大学のキャンパスを活用し、専門性を活かした生涯学習の機会を創出します。
31	地域コミュニティ推進事業 （地域共生課）	公民館・集会所が地域コミュニティにおける活動や学びの場として提供されるよう、区・自治会を支援します。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6年度	R7年度	R12 年度
指定管理者（市民会館、生涯学習プラザ、ふれあい工房）の自主事業	実施数	208 件	218 件	200 件
	参加者数	3,814 人	3,257 人	4,000 人
旧市川家住宅	来場者数	5,321 人	7,119 人	8,000 人
旧市川家住宅での講座・イベント開催数	開催数	19 回	17 回	20 回
岩崎城歴史記念館等の管理と活用	来場者数	32,948 人	34,085 人	38,000 人
大学等における生涯学習事業（子ども大学を除く）	事業数	5 件	4 件	5 件
公民館・集会所の利用状況	利用率	89.3%	82.5%	90.0%

４．大学と連携した生涯学習の推進

大学の専門性を活かして、次代を担う子どもたちの知的好奇心を探求する講座を実施するなど、大学と連携した生涯学習の推進と充実を図ります。

大学と市との連携事業や大学の公開講座に関する情報を市民へ広く周知することで、市民の自発的な学習を支援します。

⑨大学の専門性を活かした事業の実施

No	具体的な取組	内　　容
32	大学連携講座 【再掲】 （学び支援課）	市内外の連携協力協定を締結している大学との連携事業です。各大学の専門性を活かした生涯学習の機会を創出します。
33	子ども大学 【再掲】 （学び支援課）	市内外の連携協力協定を締結している大学との連携事業です。大学キャンパスを会場として活用しながら、主に小学生を対象として、各大学の専門性を活かした生涯学習の機会を創出します。
34	官学連携・協働事業 （地域共生課）	相互の課題解決に取り組むため、大学との連携協力の推進による官学連携・協働事業を実施します。
35	大学生との交流事業 （福祉会館）	大学生との交流を目的に、市内の大学サークル等による演奏会・人形劇等を行い、多くの子どもたちが異年齢交流できる場を設けます。
36	食育啓発事業 （農政課）	子どもや若者世代、また、広く市民に食育を啓発するため、管理栄養学やデザインを専攻する大学と連携し、市民配布用の啓発消耗品を作成します。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 度	R12 年度
官学連携・協働事業	実施件数	225　件	198　件	200　件
大学生との交流事業	事業数	5 事業	1 事業	7 事業
食育に関心のある市民の割合	割合	64.4%		65.0%

５．地域資源の活用による社会参画推進と子どもの育成

子どもたちが多様な価値観や考え方に触れ、地域の中で社会性や人間性を育むことができるよう、地域行事やボランティア活動など体験活動の場を提供していきます。

また、体験活動の実施によって、人々の学習成果が地域に還元される場を創出するだけでなく、世代間の交流や新たな学び、課題の発見につなげることで、社会参画の推進を図ります。

⑩地域による青少年の健全育成の支援と社会参画の推進

No	具体的な取組	内　　容
37	地域学校協働活動 （学習政策課）	地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動を通して、子どもの社会貢献意識、地域への愛着、コミュニケーション力及び学力の向上をはじめ、地域の課題解決や活性化、教員の負担軽減や地域への理解促進などを図る事業を展開します。
38	家庭教育推進委員会 （かすい） （学習政策課）	全小学校区に設置されている家庭教育推進委員会に事業委託をし、ふれあい活動・学習活動・調査活動・広報活動の各事業について、各学区において特色ある事業を実施し、家庭・地域の教育力の向上及び推進、並びに青少年の健全育成を図ります。
39	少年少女発明クラブ事業 【再掲】 （学び支援課）	普段では経験できないものづくり体験に触れ合うことで、科学的・工業的分野に興味を持ち、地域の産業を支えるような人材を育成する事業を実施します。
40	青少年健全育成講座 【再掲】 （学び支援課）	青少年の健全育成を図り、キャリア教育の推進につながる講座を開催します。
41	家庭教育講座【再掲】 （学び支援課）	親子や世代間の絆を深めることを目的とした親子参加型や多世代交流型の講座を開催します。
42	子ども大学【再掲】 （学び支援課）	市内外の連携協力協定を締結している大学との連携事業です。主に小学生を対象として、各大学のキャンパスを活用し、専門性を活かした生涯学習の機会を創出します。

⑪体験活動・地域活動の支援

No	具体的な取組	内　　容
43	子ども企画・運営事業 【再掲】 （学び支援課）	子どもの主体性や協調性、社会性などの自己形成を助け、自己肯定感を高めるとともに、自身の様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようなキャリア教育の推進を図る事業を実施します。
44	地域活動学校開放事業 （学習政策課）	各学校区の児童生徒や地域住民の地域活動のため、学校教育に支障がない範囲で学校施設を開放します。
45	市民農園事業 （農政課）	市内の農地を活用し、市民が野菜及び花の栽培を通じて自然と触れ合うとともに市民相互の交流を促進し、地域の活性化及び農業に対する理解を深めるため、日進市田園フロンティアパーク本郷農園を運営します。また、市民農園の開設を促進するため、開設者に対する補助制度を設け、その支援を行います。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
地域学校協働本部	設置数	4　本部	4　本部	4　本部
家庭教育推進委員会	事業数	60 事業	101 事業	100　事業
	参加者数	10,980　人	9,521　人	12,000　人
市民農園	利用率	98.00%	98.00%	100.0　%

基本目標２　文化芸術の輪を広げ、歴史の継承と文化財の保護と活用を図ります

１．身近に文化芸術や音楽に触れる場づくり

日進展やにっしん文化祭、にっしん音結祭などのイベントを継続して開催し、生涯にわたり文化芸術活動に親しむ機会を提供します。

市内各施設において文化芸術や伝統芸能、音楽を身近に感じる場を創出するアウトリーチ事業を推進し、市民の文化芸術や音楽に対する関心を高め、心豊かな生活と活力あるまちを実現します。

⑫文化芸術に触れる場としての公共施設等の活用

No	具体的な取組	内　　容
46	大ホール文化事業 （学び支援課）	市民会館大ホール等を活用して、コンサートや演劇、古典芸能などの文化芸術に接する機会を提供します。

⑬文化芸術イベントの継続実施、鑑賞・活動機会の提供

No	具体的な取組	内　　容
47	日進展・子どもアート展 （学び支援課）	市民の美術活動の普及と向上を図るため、作品発表および鑑賞の機会となる日進展と子どもの創造活動を促すための子どもアート展を開催します。
48	まちなかぎゃらりー （学び支援課）	市民が活動発表を行う場を提供するとともに、身近な施設で文化芸術に触れられる機会を創出するため、市内施設での作品展示を行います。
49	にっしん文化祭 （学び支援課）	市の文化芸術振興を図るため、文化協会の加盟団体による作品展示や舞台発表を行います。市民が文化芸術を体験できる機会となるよう、各連盟による体験コーナーも設けます。
50	民俗芸能発表会 （学び支援課）	市の民俗芸能の普及振興を図るため、民俗芸能連合会に加盟する保存会の舞台発表会を開催し、市民が民俗芸能に触れられる機会とします。

⑭音楽に触れる機会の充実

No	具体的な取組	内　　容
51	にっしん音結祭 （学び支援課）	市民が「演奏する」「聴く」「体験する」機会を通して音楽文化に親しむことや、市民同士のつながりを実感し心豊かなまちづくりをすることを目的に本市に縁のある方を中心に演奏発表を行い、来場者が参加できる音楽ワークショップを開催します。
52	学校音楽アウトリーチ 「音のかけはし」 （学び支援課）	子どもの頃から音楽に触れ、演奏家と近い距離で生演奏を聴いたり、コミュニケーションを取ったり、子どもが演奏に参加することで、双方向かつ主体的な取り組みとなるよう行います。また、地域アーティストと連携して実施することで、地域アーティストの育成と活動支援を行います。
53	どこでも音楽アウトリーチ （学び支援課）	市内施設に演奏家が出張し、生演奏を届けることで、市民が身近な場所で音楽と親しむ機会を提供します。また、地域アーティストと連携して実施することで、地域アーティストの育成と活動支援を行います。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
日進展・子どもアート展	出品数（日進展）	152 点	176 点	170 点
	出品数 （子どもアート展）	318 点	282 点	300 点
	来場者数	2,100 人	1,600 人	2,000 人
まちなかぎゃらりー	出品点数	85 点	68 点	70 点
	開催回数	2 回	2 回	2 回
にっしん文化祭	入場者数	4,000 人	2,800 人	4,000 人
民俗芸能発表会	来場者数	300 人	300 人	350 人
にっしん音結祭	来場者数	1,130 人	1,184 名	1,200 人
学校音楽アウトリーチ 「音のかけはし」	実施回数	9 回	9 回	9 回
どこでも音楽アウトリーチ	実施回数	2 回	2 回	2 回

２．文化芸術を担う人材育成

文化芸術の発展・継承を目指し、活動者同士の交流の場や文化芸術を発信する機会を提供し、個々のスキルアップと後継者育成を支援します。

また、子どもたちが芸術に触れる機会を作ることで、子どもたちの創造性と文化芸術活動への関心を高め、次代を担う若者の活動参加を促します。

⑮文化芸術活動者に向けた継続支援

No	具体的な取組	内　　容
54	文化協会の支援 （学び支援課）	市の文化普及振興を目指す文化協会の活動を補助金支給により支援しています。茶華道、芸能、手工芸、水石・盆栽、書道、写真、歌謡、美術、陶芸の9連盟が加盟し、こども絵画・書道教室等で次世代の育成や、連盟の事業により会員同士の交流やスキルアップを行います。
55	にっしんヤングフェスタ （学び支援課）	様々なジャンルの文化活動に取り組む若者たちの活動支援として、発表の機会となるにっしんヤングフェスタを実施しています。参加団体による実行委員会が運営し、団体同士が交流することで、市民同士のつながりや文化活動に対する幅広い意識向上を促します。
56	にっしん音結祭 【再掲】 （学び支援課）	市民が「演奏する」「聴く」「体験する」機会を通して音楽文化に親しむことや、市民同士のつながりを実感し心豊かなまちづくりをすることを目的に本市に縁のある方を中心に演奏発表を行い、来場者が参加できる音楽ワークショップを開催します。

⑯子どもが文化芸術に触れる機会の提供

No	具体的な取組	内　　容
57	学校音楽アウトリーチ 「音のかけはし」【再掲】 （学び支援課）	子どもの頃から音楽に触れ、演奏家と近い距離で生演奏を聴いたり、コミュニケーションを取ったり、子どもが演奏に参加することで、双方向かつ主体的な取り組みとなるよう行います。また、地域アーティストと連携して実施することで、地域アーティストの育成と活動支援を行います。
58	どこでも音楽アウトリーチ 【再掲】 （学び支援課）	市内施設に演奏家が出張し、生演奏を届けることで、市民が身近な場所で音楽と親しむ機会を提供します。また、地域アーティストと連携して実施することで、地域アーティストの育成と活動支援を行います。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
文化協会	会員数	991　人	923　人	1,000　人
にっしんヤングフェスタ	出演団体数	14 団体	7 団体	14 団体
	来場者数	2,200　人	400 人	2,300　人

３．歴史・伝統芸能の保護と継承

歴史講座や昔の暮らし体験学習など、日進の歴史を学習する機会を提供することで市民の郷土愛の醸成を図ります。

伝統芸能においては、まず市民にその活動を周知し、伝統芸能への関心を高めていきます。さらに、継承する人材を育てるため成果発表の場を創出し、関心のある市民が気軽に参加できる機会を作るなど、民俗芸能連合会や各保存会の保護・継承活動を支援します。

⑰郷土歴史や文化を学習する機会の充実

No	具体的な取組	内　　容
59	旧市川家住宅の保存と活用【再掲】　（産業観光課）	国登録有形文化財である旧市川家住宅の保存と、古民家を活用した事業を実施します。また事業の一部を旧市川家活用協力会と連携して実施します。
60	岩崎城歴史記念館等の管理と活用【再掲】　（産業観光課）	歴史に関する講座や展示を行い、日進の歴史を学習する機会を市民に提供します。
61	伝統料理等継承事業（公募提案事業）　（農政課）	地元の農産物を活用した伝統料理や地域農業文化を継承するため、伝統料理等継承事業の実施を支援します。
62	日進アグリスクール事業【再掲】（農政課）	「農」と触れ合い、「農」のある暮らしを実践するとともに、農家の後継者や新たな担い手を育成するため、農業体験や農作業に必要な基礎的な知識及び技術を、受講者のレベルに応じて習得できる学びの場を提供します。

⑱民俗芸能の保存と継承活動の支援

No	具体的な取組	内　　容
63	民俗芸能連合会の支援（学び支援課）	市内の民俗芸能保存団体で組織する民俗芸能連合会による、保存会同士の連携や郷土芸能の保護醸成、民俗芸能発表会や地元の祭事などでの成果発表といった活動を支援します。
64	民俗芸能発表会【再掲】（学び支援課）	市の民俗芸能の普及振興を図るため、民俗芸能連合会に加盟する保存会の舞台発表会を開催し、市民が民俗芸能に触れられる機会とします。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
伝統料理等継承事業関連講座	開催数	7 回	6 回	8 回
歴史講座と企画展	開催数	8 回	8 回	10 回
民俗芸能連合会	登録人数	304 人	329 人	350 人

４．有形・無形文化財の保護と活用

国登録有形文化財の旧市川家住宅や市指定文化財を保護するとともに、それらを活用した講座やイベント等を行うことで、市の財産である文化財の周知に努めます。

地域の歴史を後世に伝える上で、欠かすことができない文化財について、市の指定文化財として指定し、本市の民俗・伝統芸能を絶やさぬよう保護や活用を促進する意識づけに努めていきます。

⑲文化財の保護・管理・活用

No	具体的な取組	内　　容
65	旧市川家住宅の保存と活用【再掲】 （産業観光課）	国登録有形文化財である旧市川家住宅の保存と季節の飾り展示、昔の暮らし体験講座等、古民家を活用した事業を実施します。また事業の一部を旧市川家活用協力会と連携して実施します。
66	有形・無形文化財の指定および保護・活用 （学び支援課）	地域の歴史を後世に伝える上で、欠かすことができない文化財について、市の指定文化財として指定し、保護管理をします。また活用のため、市指定文化財の香久山古窯の公開期間を設ける他、文化財マップを作成し周知します。
67	埋蔵文化財保護事業 （学び支援課）	地域の歴史を後世に伝えるうえで、欠かすことができない国民共有の財産である埋蔵文化財を保護します。埋蔵文化財の試掘調査を市で実施します。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
文化財保護事業補助金	対象事業数	1 事業	2事業	3 事業
香久山古窯公開	見学者数	95　人	93　人	100　人

基本目標３　健康で豊かに暮らすため、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します

１．健康づくりと生涯スポーツの普及・振興

市民の誰もが心身ともに健康で充実した生活を送ることができるよう、スポーツ大会や体験会を行いスポーツに親しむきっかけづくりを行います。

また、競技スポーツだけでなくレクリエーションスポーツなどの健康づくりや仲間づくりを目的とした多種多様なスポーツの機会を創出し、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。

⑳スポーツによる健康づくりの機会提供、普及啓発

No	具体的な取組	内　　容
68	市民体力テスト （学び支援課）	体力・運動能力調査を実施することにより、自身の体力・運動能力を知ることができる体力テストを、スポーツ推進委員と連携して実施します。
69	学校体育施設スポーツ開放事業 （学び支援課）	市内小中学校・大学のグランドや体育館などのスポーツ施設が空いている時間を活用し、地域等に開放することでスポーツに取組む機会を増やしていきます。
70	にっしん体操等普及事業 （健康課）	講習会、指導者養成、地域における健康体操自主グループの立ち上げを支援します。
71	運動普及推進員養成・育成 （健康課）	健康づくりのための運動やにっしん体操を広く地域に普及するボランティアを養成・育成し、市民の健康づくりを推進します。
72	高齢者の健康推進事業 （福祉会館）	高齢者の健康維持を目的として、65 歳以上の高齢者を対象に、運動普及推進員による体操等を福祉会館全館で実施します。 また、フレイル予防を目的とした健康講座を実施し、学びを通じての仲間づくりや地域づくりの場も提供します。
73	個別運動指導事業 （保険年金課）	特定保健指導の対象となった人を対象に、健康運動指導士による運動指導を行い、生活習慣病改善に向けた行動変容の動機付けを行います（国民健康保険加入者限定）。

㉑子どもがスポーツに親しむ機会の創出

No	具体的な取組	内　　容
74	スポーツアウトリーチ事業 （学び支援課）	子どもや若者世代等広くスポーツを知る機会の創出を目指し、市内小中学校及び保育園等を対象に、スポーツアウトリーチ（出張スポーツ教室）を実施します。
75	小学生向けのスポーツ体験事業 （学び支援課）	体力や能力、技術、障害の有無等に関わらず参加でき、スポーツへの興味を持てるよう、レクリエーション的要素を含んだ小学生向けスポーツ体験教室を実施します。
76	日本トップレベル選手が教えるボート教室 （学び支援課）	一流選手の指導の下、みんなで力を合わせて大きな船を動かす一体感を感じられるボート教室を小中高生向けに実施します。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
市民体力テスト	参加者数	113　人	144　人	150　人
学校体育施設スポーツ開放事業	利用件数	5,503　件	4,805　件	5,500　件
にっしん体操	スポット数	32 団体	33 団体	35 団体
運動普及推進員養成講座	修了者数	94　人	98　人	100　人
おたっしゃハウス（6 館分）	参加者数（延べ）	10,988　人	11,319　人	11,500　人
個別運動プログラム	実施人数および回数	10　人（44　回）	7　人（42　回）	30　人（95　回）
小学生スポーツ体験教室	実施回数	12 回	10 回	12　回
日本トップレベル選手が教えるボート教室	参加者数	6　人	6　人	6　人

２．スポーツ団体の活動支援

各種スポーツ団体の活動支援・育成を通じて、市民へのスポーツの普及に努めます。

㉒スポーツ協会やレクリエーション協会等のスポーツ団体の活動支援

No	具体的な取組	内　　容
77	スポーツ協会 （学び支援課）	子どもから高齢者まで様々な方が所属し、他団体と連携しながらスポーツの振興と普及に携わっています。幅広い世代に向けてスポーツの楽しさをつたえるため、年間を通じて多くの大会や教室を実施します。
78	レクリエーション協会 （学び支援課）	「遊び・ふれあい・仲間づくり」をコンセプトにスポーツ・レクリエーションを普及させ、健康づくりやコミュニケーションづくりをサポートする事業を実施します。
79	総合型地域スポーツクラブ にっしんスポーツクラブ （学び支援課）	体力や能力、技術、障害の有無等に関わらず、健やかで健康な生活を送ることができるよう、子どもから高齢者まで様々なニーズに合った講座を実施します。また、福祉会館や公民館を活用して、スポーツをより身近に体験できる取り組みも実施します。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
スポーツ協会	会員数	2,586　人	2,397　人	2,500　人
レクリエーション協会	会員数	395　人	368　人	400　人
総合型地域スポーツクラブ にっしんスポーツクラブ	講座数	41 講座	40 講座	40 講座
	会員数	945　人	877　人	900　人

３．スポーツ施設の有効活用

本市が設置するスポーツ施設の運営については、指定管理者制度を導入し、市民サービスの向上を図っています。

市民の誰もが使いやすい施設を目指し、計画的な修繕や維持管理、設備・備品の充実を進めるほか、施設利用情報の提供や活用方法の提案を行い、幅広い市民の利用を促進します。

また、利用の少ない時間帯にも教室を行うなど、指定管理者の自主事業を充実させることで施設の有効活用を図ります。

さらに、市内大学等と連携した大学等施設の有効活用や、市内小中学校の空き時間を有効活用した事業も展開していきます。

㉓スポーツ施設の有効活用

No	具体的な取組	内　　容
80	指定管理者の自主事業 （学び支援課）	スポーツ施設（スポーツセンター、総合運動公園、上納池スポーツ公園）の指定管理者において、一般利用の少ない時間帯に施設を活用してスポーツ教室を実施します。
81	学校体育施設スポーツ開放事業【再掲】 （学び支援課）	市内小中学校・大学のグランドや体育館などのスポーツ施設が空いている時間を活用し、地域等に開放することでスポーツに取組む機会を増やしていきます。
82	民間施設の有効活用 （学び支援課）	市内大学等と連携し、民間施設を活用して事業を実施します。
83	総合型地域スポーツクラブ にっしんスポーツクラブ 【再掲】 （学び支援課）	総合型地域スポーツクラブ「にっしんスポーツクラブ」は健やかで健康な生活を送ることができるよう、子どもから高齢者まで様々なニーズに合った講座を実施します。また、福祉会館や公民館を活用して、スポーツをより身近に体験できる取り組みも実施します。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
指定管理者（スポーツセンター、総合運動公園、上納池スポーツ公園）の自主事業	実施数	474　件	403　件	500　件
	参加者数	17,207　人	16,500　人	18,000　人
学校体育施設スポーツ開放 （全 13 校）	利用率	60.12%	68.68%	70.0%
民間施設等におけるスポーツ事業	事業数	2 事業	2 事業	2 事業

４．地域連携と人材活用

民間企業や地域のトップアスリートと連携して、子どもの指導を行うなど、地域に根差したスポーツ活動を実施します。

また、地域の大学生の協力のもと、事業を実施するなど、人材の活用に努めます。

㉔地域連携によるスポーツ活動支援

No	具体的な取組	内　　容
84	トップアスリートによるスポーツ推進事業 （学び支援課）	地元のトップアスリートとのふれあいを通じて、スポーツ初心者にはスポーツを行うきっかけを、競技愛好者にはさらなるスポーツの探求を行うきっかけとなる事業を推進します。
85	愛知池駅伝 （学び支援課）	ランニング愛好者から競技志向選手まで手軽に参加できる駅伝を地域の大学生の協力を得て実施します。
86	日本トップレベル選手が教えるボート教室【再掲】 （学び支援課）	一流選手の指導の下、みんなで力を合わせて大きな船を動かし一体感が感じられるボート教室を小中高生向けに実施します。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
トップアスリート事業	実施回数	2　回	2　回	2　回
愛知池駅伝	実施回数	1　回	1　回	1　回

基本目標４　心の豊かさを育み、より良い読書活動を推進します

１．多様な図書館サービスの充実

バランスある資料の収集やレファレンスサービスを提供するとともに、福祉会館・学校・保育園等への配本、本を読むことに困難を伴う方に向けたサービスの充実などの多様なニーズに合わせた読書環境を提供します。

また、市立図書館の特徴である複合施設機能を活かした総合的な事業を行います。

㉕図書館事業の推進

No	具体的な取組	内　　容
87	施設への配本事業 （図書館）	福祉会館・学校・保育園等への配本・回収事業を実施します。
88	図書館事業の周知と啓発事業の強化 （図書館）	資料の閲覧・貸出に留まらない多様なサービスを実施し、転入者等に市立図書館利用の啓発を行うとともに、乳幼児・小学生等対象を区切った各年代向けの啓発事業を地域とともに推進します。
89	総合的な啓発事業 （図書館）	市立図書館の機能及び施設を活用した、総合的な啓発事業を開催します。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
配本施設数	施設数	19 施設	19 施設	19 施設
啓発事業の開催	開催回数	11 回	9　回	5　回

２．図書館ネットワークの強化

市の各部署が実施する事業で市立図書館の積極的な利用を促すとともに、広域ネットワーク推進のため、家庭、小中学校、高校、大学、企業、近隣図書館等との連携を行います。

学校と市立図書館での情報交換によって、子どもの読書状況把握に努め、子どもたちが図書を活用しやすい環境を整えることで読書活動を推進します。

また、図書館ボランティアの参加促進を行い、継続性のあるボランティア活動の推進を行います。

㉖図書館ネットワーク環境の整備

No	具体的な取組	内　　容
90	市の他部署等との連携事業 （図書館）	施設を利用した啓発事業・展示会等にて、関連図書の紹介など図書館機能を利用した連携を行います。
91	ブックスタート事業 （健康課）	3～4か月児健診に訪れるすべての赤ちゃんと保護者に絵本や図書館案内等を手渡し、読み聞かせを体験しながら絵本を通して保護者と赤ちゃんが触れ合う時間を持つよう促します。スタッフには市民ボランティアを募り市民との協働で進めていきます。
92	学校と市立図書館との連携 （図書館）	市内全ての小中学校図書館及び市立図書館をひとつに繋ぐネットワークと図書館システムを活用し、双方が連携して図書館運営を行います。また、各学校間の相互貸借及び市立図書館からの配本・レファレンスのサービスの利用を進めます。

㉗図書館ボランティア活動の推進

No	具体的な取組	内　　容
93	ボランティアとの連携 （図書館）	ボランティア団体間や所属する個人間での交流、また市立図書館との連携を強化するためにボランティア交流会を開催するとともに、ボランティア団体が主体となった啓発事業を開催することで、継続性のあるボランティア活動に繋げていきます。

【実績と目標値】

指標名		実績		目標
		R6 年度	R7 年度	R12 年度
他部署等との連携事業数	事業数	3 事業	2 事業	5 事業
ブックスタート事業絵本配布率	配布率	99.6 %	99.3 %	100 %
学校配本の数	配本数	1,980 冊	2,022 冊	2,500 冊
ボランティアが主体となって開催した啓発事業の数	事業数	4 事業	3 事業	3 事業

第６次日進市生涯学習４Ｗプラン

発行者　日進市教育委員会　学び支援課
〒470－0192 日進市蟹甲町池下268番地
電話：(0561)73－4158
ファクス：(0561)74－0258